

朕が作戦

朕は多數の機關新聞を有せり、朕が手となり足となり目となり耳となり口となりて朕が爲めに全力を傾注しつゝある多數の新聞を有せり、其多數中に於て、ストラスブルゲル、ツアイツング及びケールニツシエ、ツアイツング及びストッドドイッチエ、コルレスボンデンツ三新聞は最も大にして又最も有力なるものなり。朕に反感を抱ける獨逸國內の非國民及び朕を誤解せるもの、又は朕に同情を有せざるのみならず、朕が思想を故意に誤傳し、朕が政策を野心主義なり侵略主義なりと牽強附會して世界の同情を失墜せしめんと、朕が一言一行に細心の注意を拂ひつゝある獨逸帝國以外の國民殊に政治家新聞記者の類は、此三新聞をポツタム新聞の異名を附して注意し居れり。就中、ケールンに在るケールニツシエ、ツアイツングの如きは、歐洲各國の政治家新聞記者は『ケールンの風信機』の異名を冠して呼び、且つ細心の注意の眼を光して眺めつゝあり。而も彼等が此異名を冠するの理由として曰く、此新聞程意見の一定せざる新聞は他に例を見ること殆んど絶對に能はず、今日は右に、明日は左に、風向きの

朕が作戦

變ずるに随つて變ず、昨日の議論と今日の議論とが何等の連絡なくして掲げらる、此新聞がポツタム新聞なることを知らざる者は不思議の感を以て迎へざる能はざる程に不思議なる新聞なり、故に日々掲載する處の議論は其日限りの議論にして始終一貫せる意見なるもの全然ある無し、之れ該新聞の使用をたるウイルヘルム二世の意圖に従つて動くが爲めなり、故に歐洲の外交家は、此新聞の議論に注意せば、伯林宮廷の風向きが如何に變じつゝあるかを計り知ることを得べし——と

以上の三新聞、殊にケールニツシエ、ツアイツングが、朕の意見に據りて日々議論を爲しつゝあることは、彼等が言へる如く確たる事實なり。伯林宮廷の風向きを計る唯一の風信機として認められ居ることも、特に注意せられ居るべきことも朕は能く知り、歐洲の外交家がケールニツシエ、ツアイツングの議論によつて朕が意見の那邊に存せるかを想測し、外交方針に手心を爲しつゝあることも、朕は能く知れり。

新聞の皇帝

朕の新聞政略は我功せり、全く成功せりとすべからざるも、尠くとも成功しつゝあることは、事實其ものが確として否認すべからざることを證しつゝあり。朕が多數の機關新聞を有し、之を自由に操縦しつゝあることが、世界の注意聳目するのみを以てしても、確かに朕が新聞政略の一端は奏効せりと認むることを得。而も其等多數の新聞に發表せらるゝ議論の内容は、朕が政略の成功を確實ならしむべきことを目的として爲しつゝあり。歐洲の外交家が、朕の機關新聞によりて朕の意見を推測し、對獨外交の参考に資しつゝあるは、即ち朕が新聞政略の奏効なり。

朕が新聞政略は、必ずしも外交的方面のみならず、帝國內の人民に對する朕と神との關係、朕と國民との關係、神と國民との關係を理解せしむることに於ても成功しつゝあり。朕が政策を凡て善意に解すべきが朕に對する忠順なる所以なることを服膺せしむることに於ても成功しつゝあり。新領土内の人心を收攬することに於ても成功しつゝあり。朕が大敵なりと思惟されつゝある社會黨の運動を巧みに失敗せしむるこ

とに於ても成功しつゝあり。

見よ、アルサス、ローレンの人心收攬の機關たるストラスブルゲル、ツアイツングは、常に甚だ有効なる働きを爲しつゝあるにあらずや、同地方に於ける社會黨の運動を妨害し巧みに屢々失敗に終はしめたるものは、即ちストラスブルゲル、ツアイツングの力なりしことは、朕能く之れを認むることに吝ならず。アルサス、ローレンの人民は此新聞の力によりて日に月に獨逸化せられつゝあり、社會黨の運動は常に失敗に歸して、朕が權威の安全は常に能く保持せられつゝあり。又、南部獨逸國民に對して朕が外交政策を説明するの機關新聞たるストドイッチエ、コルレンスボンデンツは些しの齟齬なく錯誤なく常に能く其の目的を達しつゝあり。

憎悪すべきものは新聞なり、世界に斷じて存在を許すべからざるものは新聞なり。然れども、好愛すべきものは亦新聞なり、一秒時間たりとも其存在を無視し不必要視

新聞の皇帝

軍備大擴張の目的  
すべからざるものは新聞なり。朕は新聞を憎むこと甚しく、又新聞を好むことも甚し  
而して其は彼れを有利に使用することに於てのみ好愛す。

### 五八 軍備大擴張の目的

一九〇〇年巴里博覽會に於ける北獨逸ロイド館の壁上の大書したる「獨逸帝國の將  
來は海上にあり」の一語は、特に朕が命じて掲げしめたるものなることは、世人の知  
れるが如く朕も亦決して否認せざるべしと雖も、此一語について朕は特に辯明し置く  
の必要を認む、何となれば、此一語の因て來れる動機と目的とが、甚しく世界に誤解  
せられつゝあればなり。

批評する者は言へり、此の言は即ち獨逸皇帝ウイヘルム二世の政治的大志望の精  
髓を遺憾なく表示せるものなり——と。而して又、朕が獨逸帝國の將來を海上にあり  
と思惟し、其方針を執るに至りたる動機を論じて言へり。——獨逸帝

國の將來を海上に置かんと思念し計畫するに至りたるは、四億の人民を有し、世界最  
強の勢力を有する英吉利帝國の偉大なるを觀て羨望したる結果なり——と。而して又  
朕が陸軍の大擴張をなすつゝあるに對しては、——彼れが陸軍を強大ならしめんと  
努力しつゝあるは、一億以上の人民を有し其強大なる陸軍を擁して切りに亞細亞を侵  
略しつゝある露西亞の壯觀を觀て甚しく羨望したる結果なり——と。又言へり、——  
彼れは獨逸帝國をして英國の流儀によりて強大なる海軍力を擁して膨脹せしめんか、  
將た又露國の主義を學んで雄大なる陸軍を造り、それによりて膨脹せしめんか、二者  
其一を選択することに於て迷へり。即ち海軍及び商業の膨脹を主として世界に勢力を  
擴張せんか、或は強大なる陸軍を以て四隣に國威を伸張せんかについて迷惑せり。  
然れども彼れは現在に於ては二者を同時に實行せんとしつゝあり、歐洲に於ける膨脹  
政策と世界に於ける帝國主義とを行ひつゝあり、即ち佛蘭西のルイ十四世及ルイ十五  
世の爲せし所を爲しつゝあり。而して又ルイ十四世及び十五世の失敗の轍を履み列國  
怨嗟の中心となり自ら招ける災禍に陥らんとしつゝあり——と。

軍備大擴張の目的

これは甚だ誤解せる批評なり。甚だ無責任なる批評なり。朕を知らず獨逸帝國を解せざる批評なり。只だ外形のみを見て直ちに内容を判断せんとする皮相の觀察なり。而して又朕及び獨逸帝國に對して大なる侮辱を加へたる評言なり。

朕は神の命によりて生れ獨逸皇帝となれり、而して朕が神の命によりて獨逸皇帝となれるは、只だ單に獨逸一國のみの保全を得んが爲めのみにあらずして、全歐を統一し、更に進んでは世界を征服統一すべき大使命を有し、薄弱なる帝權によりて辛ふじて命脈を保持せる彼の人造帝王にあらず、神の使命を遂行せんが爲めに人類界に生れる神使なり、即ち神造皇帝なり、ウイヘルム二世は一個の人間が帝室に生れたるの理由を以て帝位に陞れるにあらずして、神が其意志を達成せしめんが爲めに、獨逸皇室に生れしめたるなり。

朕が一言一辭は即ち神意によりて發す、朕が一舉一動は即ち神の意志によりて行

す。其海軍大擴張計畫の如きも、英吉利帝國の偉大なるを觀て、之を羨望するのあまりになれるにあらずして、神の意志を遂行する上に於て必要と認めたるが故に海軍大擴張を計畫し、之を實行しつゝあり。

又陸軍の大擴張の如きも、露國の流儀を學びて威を四隣を振はんが爲めの野心に出でたるにあらずして、神の使命を果さんが爲めには、強大なる陸軍を必要とするが故に計畫し又實行しつゝあり。

而も彼等評者は、朕が佛王ルイ十四世及びルイ十五世の轍を履まんとしつゝありと言へり。されど此は朕が何者たるかを知らざる批評なり。神の使命の下に生れ來れる神造皇帝と人民より推戴せられたる人造帝王とを混同視せる盲目の批評なり。

佛王ルイ十四世及十五世は、神より受けたる何等の使命をも有せざりき、即ち人民によりて推戴せられたる帝王なりき、彼れが陸海の軍備を擴張して威を四隣に振ひ吞噬を恣にせんとしたるは神の意志にあらずして彼れの個人的野心なりき。即ち人

軍備大擴張の目的

造帝王に於て往々免れ難き缺點を有したる人物なりき。

彼等が始めに稍成功して遂に失敗したるは、己れの人造帝王なるを自覺せず、徒らに帝王の權に驕り、神意にあらざる野望を遂行せんとしたりしが爲めなり。神の使命を有せざる者は、神の加護を有せざる者は、其始めに於て如何に成功すとも遂に失敗して酬ひの苦痛を受けざるべからざることを知らざりしが爲めなり。即ち彼等の軍備擴張は必要なきに必要なりと爲せし軍備擴張なりしなり。

朕が軍備擴張は然らず、必要ありて爲すなり、即ち神命によりて爲すなり。朕が爲すにあらざりて神が爲すなり。神の意志に據らずして徒らに不必要なる軍備を擴張したるルイ十四世及び十五世の結果と、神の命を奉じて軍備を擴張する朕の結果とが、同様の憫むべき運命に陥るものにあらざることは、朕を信するもの、決して疑はざる處なり。朕が軍備大擴張の目的は朕が個人的野心を満足せしめんが爲めにあらざりて、神の使命を遂行せんが爲めなり、即ち神聖なる意義を以て充滿されたる軍備擴張なり。

五九 免れ難き英獨開戦

朕が信頼する、而も神に選ばれたる我獨逸帝國の民よ！

汝等は我獨逸帝國が英國と、交戦國として相對せざるべからざる時あるを知らざるべからず。極東に於て日本との戦が早晚已むを得ざる事情の下に實現せらるゝ時あるが如く、英國との戦も早晚已むなき事情の下に開始せらるゝ時あるべし。

日本との開戦が先きに於て現はるか、英國との交戦が先きに於て開始せらるか、今日に於ては斷言すること能はずと雖も、日本との開戦も所詮避くべからず、英國との開戦も亦到底想像のみにして終ること能はず。日英何れと開戦するも、日英同盟が依然其際に繼續しあらば、日英兩國と同時に戦はざるべからず。朕は日英何れと戦ふも、兩國の同盟關係が消滅したる後に於てなすべく、常に巧みに朕獨特の外交手段を以て、日英間の感情を疎隔ならしめ、同盟の永續に妨害を試みつゝあり。汝等は常に發表せらるゝ外交文書の内容の裡面に於て、其事の事實なることを看取し得べき

免れ難き英獨開戦

を信ず。

免れ難き英國開戦

朕が信頼する而も神に選ばれたる我獨逸帝國の民よ！  
或は論ふものあるべし。獨逸は何が故に英國と戦はざるべからざるか。何故に獨逸と英國との衝突は避くべからざるか。英獨兩國民は共に之れセルマン人種なるにあらすや、其民族上の關係より見れば、共通の敵を有し、共通の利益を有するが故に、寧ろ提携同盟して活動すべき筈なり、英國は世界最強の海軍國なり、獨逸は世界最強の陸軍國なり、世界最強の海軍と世界最強の陸軍とを結合せしむれば、其意の交へに世界に雄飛するを得るにあらざるや、然るに強いて戦はんとし争はんとするは、其の何の爲めなるかを解するに苦しまざるを得ず——と。斯くの如く怪訝の念を挾むものは英國民中にもあるべし、我獨逸國民中にもあるべし、況んや第三者たる列國に於ては其數決して尠なからざるべし。朕は斯くの如き疑問の聲が四方に響ける事實を知れり而して此疑問の聲を發する者は、獨逸が同民族たる英國と戦はざるべからざる理由と

して、朕が野心にありとせり、ドンキホーテ式空想に驅られたる結果なりと言へり、誇大妄想狂的發作の結果なりと論へり。

朕が信頼する而も神に選ばれたる我獨逸帝國の民よ！

汝等は夫婦間に於ても、親子間に於ても、同胞間に於ても、或特別なる場合には相争ふの已むを得ざることあるを知れるなるべし。英國民と我獨逸國民とは同じセルマン人種なるには相違なしと雖も、而も相敵視し相闘ふは倫道の頹廢を曝露せる野蠻的真相を表示せるものなるが如くにして一理なきにしもあらずと雖も、朕は遂に斷然戦を宣せざるべからざるを如何せん。朕は是れと全く反對の方向に動かざるべからざるを奈何せん、即ち、屢々汝等に諭告せしが如く、朕は神の大使命を有す、我獨逸帝國を世界の盟主國たらしめざるべからざる大なる使命を有す、大なる責任を有す。朕は此の大使命を遂行する必要上、英國海峡の制海權を得ざるべからず。而して米國との連絡を奪取せざるべからず、而して地中海を朕が支配下に置き、以て亞弗利加及び濠

免れ難き英國開戦

免れ難き英獨開戦

洲及び亞細亞との交通を朕が手中に握らざるべからず。

朕が英國海峽を制せんとするに對して、英國が袖手傍觀せざるべきことは、大人の最初は嬰兒なりきと云ふよりも明瞭なる事なり。而して、朕は英國が朕の行動に對して備ふる處ありて厭くまでも抗爭せんとするの態度明瞭なるの理由によりて此計畫を拋棄すること能はざるなり、若し朕にして英國の反抗を恐れ、英國との戦を避けんが爲めに、其計畫を擲棄せば、朕は神の使命に背くものなり、朕が神の命によりて獨逸皇帝となりたる意義を全然無意義に終らしむるものなり。朕は神の使命は、如何なる艱難を排しても果さざるべからず、如何なる障礙を排しても遂行せざるべからず。而も英國は現在に於て世界の海上王なりと稱して横行濶歩しつゝあり、而して將來永遠に亘りて其海上王たる位地を失はざらんと力めつゝあり。然るに朕が英國に代つて海上の霸權を掌握せんとす、英國と早晚開戦するの避け難き理由は、即ち此處に存するなり。

朕が信頼する而も神に選ばれたる我獨逸帝國の民よ！。

朕は、屢々汝等に諭せるが如く、自ら好んで戦を爲さんとするものにあらず、萬事を平和の裡に解決して、惨虐なる戦争を避けんとするの念は、分秒の間も朕が念頭より忘れられたることなきなり。朕が神の使命を果すについても、可成的平和のうち目的を遂行せんと欲し、過去に於て種々其方法を講じ、手段を執ることに熱心なりしと雖も、現在に於ても平和的手段の最善を盡しつゝありと雖も、列國は常に猜疑の眼を以て我獨逸帝國を見つゝあり、而して彼等は我獨逸帝國を侵略主義を國是とする猛鷲の如き野蠻的文明國なりとし、軍備を擴張して警戒を益々嚴重にし、朕が平和的手段の最善を水泡に歸せしめたり、又歸せしめつゝあり。

而も朕は神の使命を有する世界に於ける唯一人なり。我獨逸帝國は神に選ばれたる國民を以て朕が統帥の下に組織されたる大任務を果すべき責任を有する國なり。如何なる方法を講じても如何なる手段に訴へても目的を達成せざるべからざる責務を有す

免れ難き英獨開戦

免れ難き英獨開戦

る國なり。其目的が平和的に遂行し得られざる場合は、好ましき事にあらずと雖も、斷然武力に訴へても猶且つ達成せざるべからざる使命を有する國なり。

列國既に朕が使命の存する處を知らず、我獨逸帝國が神に選ばれたる唯一の國たることを知らず、朕が好意による平和的運動を阻止妨害し、朕をして好ましくならざる軍備の大擴張を敢てせしむるに至れり。而も彼等列國は、朕が軍備大擴張の原因が列國の態度にあることを知らず、益々朕を猜疑し、愈々侵略主義の大準備を爲すものとせり。噫愚鈍にして覺ることを知らざるものは憚むべきかな。

總て朕が強大なる武力の下に粉碎さるべき彼等の憚むべき運命が即ち彼等自からの招致したる運命たることを知らざる彼等は、實に憚むべく嗤ふべきものと謂はざるべからず。

朕が軍備擴張殊に海軍の大擴張を計畫し、着々實行し、今や將に雄大なる海軍とならんとするを見たる英國は、朕の計畫が英國を壓倒せんとするにあるを感知し、競争的に海軍擴張を唱へ且つ實施しつゝあり。彼は今や我獨逸帝國と海上權の爭奪に

ついで早晚大衝突の免れ能はざるを覺悟し居れることは、朕既に能く之れを知れり。英國の態度既に斯くの如し、苦獨開戦の已むべからざる理由は炳乎として亦一點の疑問とすべきものなきにあらずや。

朕が信頼する而も神に選ばれたる我獨逸帝國の民よ！

英國と我獨逸とは其人種に於ては等しくゲルマン人種なりと雖も、我れは神の使命を有するに對して彼れは神の使命を有せず。而も我の享有する使命は、同人種たると異人種たるを問はず、一列同視せざれば遂行し能はざるなり。同人種にして共通の利益を有すべき、又共通の敵を有すべく思惟せらるゝ英國も、神の前には異人種にして共通の利益を有せず又共通の敵を有せざるものと毫も相違する處なきなり。神の使命を果さんとす我獨逸帝國の利益は世界の何れの國とも共通すること能はず、世界の何の國をも味方となすこと能はざるなり。何となれば神の大使命は我獨逸帝國のみ之を有して世界の何の國も有するものなければなり。

免れ難き英獨開戦



我獨逸帝國が英國と開戦の避くべからざるを疑問とするものは、未だ朕が有する大使命を知らざるものなり。未だ我獨逸帝國が特別なる神選國たるを知らざるものなりされば、朕が大使命を知り、我獨逸帝國の有する大任務を知るものは、朕が平和的要求に應ぜざる國は、啻に英國のみならず、世界の何の國と雖も、戦はざるを得ざる必然的運命にあることを信じて疑はざるべし。

### 六〇 白耳義、和蘭併呑企劃

神に選ばれたる光輝あり使命ある汝等國民よ！  
汝等の慧敏なる眼を帝國の西境に轉じて注視せよ、其處には神が我獨逸帝國に與へんとして造れる二つの狭小なる國の存在せるを見るべし。而して其國の人文は高度に達せり。其國の人民は暹勉にして産業は驚くべき程度に進歩し居れり。發達し居れり其富力は豊裕にして宛がら一大寶庫たるの觀を呈せり。  
朕は此二小國を朕が統治下に置き、我獨逸帝國の一部と爲さんと欲し、過去に於て

手段を弄し方法を講ぜり、現在に於ても凡百巧みなる方法を以て、手段に訴へて併呑を畫策しつゝあるなり。

此二小國を併呑し、アントワープ及びロッテルダムの諸港を占有せば、我獨逸帝國の富力は驚くべき程度に増進せらるべし。而して倫敦、グラスコー、或はドーツァーの商業を、悉く昇等の諸港に奪ひ收むることを得べし。朕は國家經濟上の點よりしても、此二小國を永久の獨立國として、其存在を認め置くべからず、乗ずべき機會の到來するあれば、斷然我帝國の領土に編入するの舉に出でざるべからず。

神に選ばれたる光輝あり使命ある汝等國民よ！  
汝等は試みに思へ、我獨逸帝國が佛蘭西若しくは英國と開戦したる場合を——。而して、佛國艦隊若しくは英國艦隊が、帝國諸港の封鎖的目的と軍需品を輸入せんとする米國汽船或は帝國船舶捕拿の目的とを以て、英吉利海峽若しくは北海に遊弋し、嚴重なる警戒の網を張りたる場合を——。

白耳義、和蘭併呑企劃

白耳義、和蘭併呑企圖

斯くの如き場合に於て汝等は、猶ほ能く米國汽船が帝國の諸港に到來し得べしと思惟し得るや。帝國は生活に必要な穀類の欠乏に困窮することなしと信じ得るや。若し汝等にして然か信せば、其は甚しき誤見たるを免かれざるなり。何となれば、帝國の海軍劣勢にして敵艦隊を驅逐するの實力なき場合は、一隻の汽船たりとも入港すること能はず、一粒の穀類たりとも輸入せらるゝこと能はざればなり。

然れども、若し帝國が兩境の二小國即ち白耳義及び和蘭を領土に編入し、アントワープ及びロッテルダム諸港を占有し、北海を其勢力内に收むるを得ば、其の戦時に於ける利益は、殆んど無量なりと云ふも、決して誇張したる言にあらざり。白耳義及び和蘭兩國を帝國の領内に編入するの急務なるは、此一事によりて見るも、汝等は容易に首肯し得る處なるべし。

關係に如何の價值あるべきかについて考へざるべからず。細心周到に考慮せざるべからず。

佛蘭西が現在に於ける我獨逸に對する國境防備は、白耳義、和蘭及び永久中立地たるルクセンブルグ公國あるが爲めに、甚だ困難ならざる状態にあり。即ち、不完全ながらもヴェルダン、ツール、エビナル等の要塞の防備を堅固にせば足るが如し。

佛蘭西は是れ以上ルクセンブルグより白耳義方面の國境全線に亘りて、我獨逸軍の侵入を阻止し得るに十分なる防備を施すには、到底不可能なりと言ふべし。否な佛蘭西はヴェルダン線の防備に於てすら十分我獨逸軍の侵入を阻止し得る確信を有し居らざるを看取し得べし。

朕にして一たび白耳義、和蘭の二小國を勢力圏内に收むるを得れば、佛蘭西を一舉に蹂躪すること尋常茶飯事のみ。然れども、白耳義、和蘭兩國が我獨逸の爲めに併呑せられたる場合に於ける大打撃は、實に佛蘭西一國のみならず、海を隔てたる英國も共に大打撃を蒙らざるを得ず。故に英國は過去に於ても現在に於ても或は又將來に

白耳義、和蘭併呑企圖

白耳義、和蘭併呑企圖

於ても、該兩國を獨逸領となさざらしめんが爲めに、凡百手段を盡し來れり、盡しつゝあり、是は朕が詳細なる説明を試みずとも、既に汝等の熟知せる所なるべきを信ず而も英國が何が故に白耳義、和蘭兩國を獨立國として永遠に保證せんと全力を盡しつゝあるかは、該兩國と英國との商業的關係を知る者は首肯するに容易なるべし。即ち、若し朕が白耳義、和蘭兩國の併呑の目的を達成し、アントワープ及びロッテルダムの如き諸良港を占有すれば、倫敦、グラスコー、ドーヴァール等の商業的生命は悉く帝國の諸港に奪はるゝに至るや必せり。英國が佛蘭西と相提携して、白耳義及び和蘭兩國の領土を保全せんと、朕が該地方征略の企劃を破壊し、全然失敗に歸せしむべく大いに力めつゝある理由は、即ち此處に存せり。

而して又、我獨逸帝國が近き將來に於て佛蘭西と開戦せざるを得ざるが如く、早晩英國との衝突開戦の已むべからざる所以なりとす。

神に選ばれたる光輝あり使命ある汝等國民よ！。

英國の對獨感情が如何なる方向に進みつゝあるかに靜かに注意せよ。英國は單に朕が白耳義及び和蘭兩國の併呑企劃のみに對しても、猛烈なる惡感情を有せり、朕にして此企劃を全く拋棄することなくんば、彼れは武力に訴へても朕が企劃を破壊せんとして期しつゝあり。彼れが、同じく朕に對して對敵感情を抱き、好都なる機會だにあらば四十年前に於ける普佛戰爭敗劔の深き一怨恨を晴さんとしつゝある佛蘭西と、同盟的提携を爲し、我帝國の急進的膨脹政策の妨害に力めつゝある一事に徴しても、英國が我が帝國に對する感情と態度と決心との總體を計量し得るに甚だ容易なるべし。

六一 英國傳來の仇敵は佛蘭西

神に選ばれたる而も光輝あり使命ある汝等國民よ！。

汝等は英國と佛蘭西とが歴史的に如何なる關係あるかを知れるなるべし。即ち、歴史的に英國と佛蘭西との關係を觀れば、英國は如何なる事情の存するとも、佛蘭西と

英國傳來の仇敵は佛蘭西

英國傳來の仇敵は佛蘭西

同盟的提携をなすこと絶對に能はざる筈なり、英國にして一片稜々たる男子的真氣骨眞精神の滂礪するものあらば、例へ我獨逸と提携するとも、佛蘭西とは斷じて同盟的提携を爲すこと能はざる歴史的關係あるなり。其の民族上の關係のみならず、英國が如何に佛蘭西の爲めに迫害されたるか、如何に慘憺たる憂目を見せしめられたるか、佛蘭西の國土と佛蘭西國民の存する限り、永遠無窮に忘却すること能はざる深酷なる怨恨が事實に於て存せるかは、歴史が詳かに語れる所にして、蔽ふこと能はず、隠すこと能はず、否認すること能はざる儼然たる事實なり。

然るに彼れ英國は、今や其の相和し相提携すること能はざるべき筈の佛蘭西と提携握手せり。彼れは佛蘭西が英國傳來の仇敵たることを忘れたるかと云ふに、彼れは決して其を全然國民的記憶より忘るゝこと能はざるなり。然れども、彼れは忘れられざる敵と故意に相忘れて提携せざるべからざる状態となれり、少くとも或目的を互ひに達成する迄は歴史的關係を記憶より一時的切り離し置くの已むを得ざる危急に陥れり而も彼れをして斯くの如き態度を執るの已むなきに至らしめたるは、即ち我獨逸帝國

の急進的膨脹政策なり。即ち朕が帝國防護の必要上と大使命遂行上の必要とより、白耳義及び和蘭の兩國を併有せんとする企劃を逐次的に實行しつゝあるの結果なり。

六二 噫々憫笑すべき擬造的強國よ

噫々、憫むべきかな英佛の二國よ。彼等は陸軍に於ても海軍に於ても、單獨に我獨逸帝國と開戦し能はざるなり。彼等は、朕が白耳義及び和蘭を佛存せんとするに對して、傳來の仇敵と相忘れ相提携するにあらざれば、妨害を加ふること能はざるなり。言ふことを止めよ、英國が世界最大最強の海軍國なりと自ら吹聴するも、其吹聴が實力相伴へるものにあらざることは、朕に對する態度の甚だ憫むべきものあるに依りて、十分に證明し得るにあらずや。彼れ若し、眞に世界最大最強の海軍國たりせば、堂々たる態度を以て我獨逸帝國の急進的膨脹政策に掣肘を加ふべきにあらずや。威嚇的態度を以てしても十分に奏効し得るにあらずや。然るに彼れは自ら世界最大最強の海軍國なりと稱して小弱國を雌伏せしめつゝあるにも拘らず、歴史的に相提携し得ざ

噫々憫笑すべき擬造強國よ

噫々憫笑すべき擬造強國よ  
るべき筈の佛蘭西と舊怨を忘れ、相提携して對獨手段を執りつゝあるにあらざるや。彼れの自ら吹聴するが如く眞實世界最強の實力あるものならんには、何ぞ佛蘭西と舊怨を忘れてまで提携するの要あらんや。之れ即ち彼れの海軍に實力なきを證するものにして、彼れが我獨逸の精銳なる海軍に對して勝算なきを自覺せる結果に外ならず、既に彼れの海軍が我獨逸海軍に對して實力劣れりとすれば、彼れの海軍は世界最強の海軍にあらざるや明かなり。

噫々、憫むべく笑ふべきは英國ならずや。傳來の仇敵と舊怨を忘れて相提携し共同的運動を爲すにあらざれば、我獨逸帝國に拮抗すること能はずとは、何等不甲斐なき世界最強の海軍國ぞや、何等滑稽なる海上王ぞや。

朕は斷々乎として白耳義を併呑し和蘭を領土内に加へん。實力なき自稱大海軍國や意生地なき佛蘭西の同盟的運動亦決して憂慮する所なきなり。

朕は英佛と開戦するも決して白耳義和蘭兩國併有の希望は捨てざるべし、運動は依然として繼續し決して中止することなかるべし。朕の背後には神の在るあり、朕の前

途には神護のあるあり。我帝國の將來を確保せんが爲めには、又神より受領せる使命遂行の爲めには、全歐を敵として開戦するも決して辭する所なきなり。

噫々傳來の仇敵と舊怨を忘れて相提携せる憫むべき英國よ、汝の海軍は遂に早晚精銳なる朕が海軍の爲めに粉碎せられざるべからざる運命線上に立てるものなり。

噫々他國の勢力を借るにあらざれば、舊怨の大敵の襲來を防遏し國家を完全に保護し得ざる憫殺すべき佛蘭西よ、汝の國境防備は強大なる朕が陸軍の爲めに早晚蹂躪され、其陸軍は盡殺され、世界一の模範的都會を以て誇れる巴里は朕が重砲の爲めに破壊せられ、全國土を捧げて朕が脚下に蟠伏さざるを得ざる憫むべき運命は、既に業に汝の頭上に漂へり。噫々憫むべき擬造的強國よ！。噫々笑ふべき意氣地無き英國よ、佛蘭西よ！。

### 六三 國民に對する朕の不滿

オ、朕が愛する汝等獨逸帝の民よ！。

國民に對する朕の不滿

國民に對する朕の不満  
汝等は、朕が常に教誨する所によりて、大いに啓發せられ、稍々朕が使命、帝國の使命、汝等國民の使命について自覺し、朕が選べる國民らしくなり來れり。朕が股肱たるに相應はしき國民の資格に接近しつゝあり。朕は汝等が斯く自覺し來れる所を見て、常に喜びつゝあり。猶ほ短時日を以て、朕が満足する完全なる國民とならんことを切望しつゝあり。

されど、朕は未だ汝等に教ゆべき多くを有せり。汝等は現在既に完全なる獨逸國民たる資格を備へたりと自信し居るやも知れねど、其は汝等が未だ自己を見るの明なきが爲めに於て、朕より見れば猶ほ未だ多くの不足なる點を存せり。即ち、朕をして完全無欠なる國民よと叫ばしむるには未だ多くの距離を存せり。故に朕は猶ほ汝等に教へざるべからず。

神が特に朕を選びて全歐征服、世界統一の重大なる使命を授けたるは、神の好奇的或は惡戯的意志より出でたるものにあらずして、實に世界平和を永久に維持せしめんが爲めなり。人類永遠の平和を確保せしめんが爲めなり。されば神は朕に絶大なる庇

護と力とを與へ、反抗するものに對しては武力的裁斷を加へ、殺戮を以てするを許せりと雖も、其は如何なる場合に於ても武力的斷裁を以てせよと言ふの謂にあらず、殺戮を以て征服せよと云ふの謂にあらず。平和的方法手段の一切を盡せ、而して平和的方法手段の効果なきものは斷乎として武力的裁斷を加へよ、殺戮を以て征服せよと云ふの謂なり。

されば朕は軍備の大擴張をなすと共に、可成的其の擴張したる軍備を萬一に備ふものたらしめんと、平和的凡百方法を講じ、平和的凡百手段を盡しつゝあり。外交術を以て保護國となさんとするも其の一なり。一日一地を占め二日二地を領する即ち所謂蠶食的方法も其の一なり。租借的方法によりて其の全領土を併有せんとするも其の一なり。宣教師を派遣して宗教的に征服せんとするも其の一なり。又殖民地經營も其の重要なるものなり。其他すべてのものを挙げれば、殆んど數ふるに遑あらざるなり。

されど、汝等は誤解せるが如し、即ち、朕が全歐征服及び世界統一の遂行は、すべて武力的手段に訴へて爲すものと思惟せるが如し。之れ朕が汝等に教へざるべからず

國民に對する朕の不満

國民に對する朕の不滿  
の必要ある所なり。

武力は最初のものにあらずして最後のものなり、最初の冒頭的手段にあらずして最後の終局手段なり。最後の手段中の最後の手段なり。

神の使命既に其主意世界人類の平和を永遠無窮に確立せんが爲めの無限無窮の大慈悲心にあり。されば、神は平和的方法手段を以て容易に目的を達成し得べきものをも武力に訴へて慘虐なる戦を宣せよと許したるにあらず、一切の平和的方法を講じ、一切の平和的手段を盡し、是れを以て解決し得ざるものは斷乎として武力を以て解決せよと云ふにあるなり。

故に朕は全世界唯一の大陸軍大海軍を造ることに劣力しつゝありと雖も、其は決して如何なる場合にも直ちに之を使用せんとするの目的にあらず、一切の平和的方法手段の及ばざる時一舉塵殺的に解決を試みんとするにあり。汝等決して誤解すること勿れ、朕の何者たるかを知らず、我獨逸國民の如何なるものなるかを知らずして、徒らに猜疑嫉視し、朕を評して無法なる侵略主義皇帝なりとし、凡百中傷と凡百謬言とを

弄して、朕が計畫を根本的に破壊せんとしつゝある徒輩の言に迷ひ、絶大なる名譽と偉大なる光輝とを有する獨逸帝國國民の資格より墜落すること勿れ。

オ、朕が愛する汝等獨逸帝國の民よ！。

朕が特に汝等に満足し得ざる所のものは、即ち、朕が殖民政策に對する汝等の態度にあるなり。汝等は朕が銳意力を盡しつゝある殖民政策を、餘剩民の捨場所を造りつゝあるものと誤解せるが如し。之れ朕が常に不滿とし、汝等を教へ鞭撻を加へんと欲する所のものなり。

常に世界の大勢に注意し、常に我獨逸帝國の一舉一動に、周到なる研究的眼を以て注視しつゝある世界の新聞記者、或は文明批評家、或は政治家、外交家の類は、朕が殖民政策に於ける汝等の態度を忌憚なく評して曰へり。獨逸皇帝は、海外に於て殖民地を得んとするに熾んなる希望を有せり。而かも皇帝の熱心と努力とによりて海外に輸出されたる移民の數は、皇帝の熱心と努力とに反比例せり、即ち、其の過去に於け

國民に對する朕の不滿

國民に對する朕の不滿  
 るが如く多數ならずして、現今毎年二萬より三萬を往來しつゝあるに過ぎず——と。  
 又曰へり、殖民政策に對する皇帝の熱心は、殆んど制止すべからざる程に、又局外  
 者が數學的に數字や形容詞を以て評現し得ざる程に熱心なり。而して此不斷熾烈なる  
 熱心は常に大殖民地を得んとすることに注がれつゝありと雖も、皇帝の希望せるが如  
 き大殖民經營が、果して獨逸帝國の爲めに有益なりや否やは、國民が皇帝の殖民政策  
 に賛成するや否やに依りて決せられ想像せらるゝ問題とせざるべからず。而も過去に  
 於ける將た現在に於ける移民の數と、國民の氣風とより推論するときは、皇帝の熱心  
 なる大殖民經營は遂に失敗に終るの已むべからざるものあるを發見するに困難ならず  
 何となれば、今日迄に於ける海外移民の事實は、未開地への數少くして文明國への數  
 甚だ多ければなり、即ち、米國其他文明の進歩したる、且つ自由なる地方に住むを好  
 み、政府が設定したる殖民地を好まざるの傾向あればなり——と。而して斯くの如  
 き批評を爲すものは、彼等の少數者にあらずして、殆んど全部なるより觀れば、決し  
 て事實に反したる誤謬の批評となすべからざるは何人と雖も首肯せざるを得ざる處な

り。而も亦、朕が汝等に對する不滿も同じく此點にして、汝等を誨へて鞭撻を加へん  
 とする理由も此に存せり。噫々、朕が愛する汝等獨逸の民よ、汝等は何が故に各國の  
 批評家をして斯くの如き餘り名譽ならざる批評を爲さしむるや。何が故に朕が政策に  
 隨喜せざるや、何が故に朕が設定したる殖民地に住むを好まざるや。軍備擴張に何等  
 の不平なく不滿なく、寧ろ汝等より希望するもあるに反し、獨り殖民政策に悦服せざ  
 るは、朕の甚だ嘉せざる處なり。汝等は殖民が汝等の自由意志にあるの理由より、我  
 帝國將來の國運を隆昌ならしめんとの計畫より、朕が設定したる有利なる殖民地に移  
 住することを爲さずして、亡國的歡樂を追求するにのみ多くの好都合を有し、我帝國  
 將來の國運發展上には其効果比較的僅少なる地方に移住せんとするは、即ち之れ國家  
 に忠實なるものと謂ふこと能はざると共に、又朕に對して忠順なるものと認むること  
 能はざるなり。皇帝に忠順ならず、國家に誠實を欠ける汝等は、即ち、汝等夫れ自か  
 らにも不忠實なるもの計らざるものなることを知らざるべからず。而して又、特に神  
 が選抜したる意志に添はざるものたることを知らざるべからず。而して又帝國の光輝

國民に對する朕の不滿



平和的世界統一の手段  
と名譽とを將來に於て地に委せんとするものなるを知らざるべからず。

### 六四 平和的世界統一の手段

オ、朕が愛する汝等獨逸帝國の民よ！

汝等は、朕が何故に大殖民經營に熱心し努力しつゝあるかを知らざるべからず。朕が熱心に大膽に危険と困難を冒しつゝ大殖民經營に力を盡しつゝあるは、慘酷なる流刑的目的より汝等を未開の遠地に移住せしめんとするにあらず、過剰民を不用視して捨場を造らんとするものにあらず、之れ實に朕が神より受けたる大使命を果さんが爲めなり。即ち、可成の戦争の慘禍を避けて平和的手段により、世界を統一せんとするが爲めなり。而して世界人類平和の基礎を永遠無窮に樹立せんが爲めなり。

素より殖民地經營が、朕が最後の目的たる世界統一に於ける一種の平和的手段たる以上、決して汝等が現に好みつゝある文明の進歩したる地方には全然不必要なりとは言はず、されど、現在に於ける世界の狀態及び我獨逸帝國の狀態より觀れば、文明の

度の、餘りに進歩し居らざる未開の地方を先にするの甚だ有利なるを執らざるべからず。

朕は文明の進歩したる地方に、汝等が移民とし第二の故郷を造り、獨逸固有の文明を以て彼等の文明を征服し、平和的に自然的に、獨逸帝國の領土の一部と成すことは素より希望し獎勵する所なりと雖も、其は甚だ容易なるが如くにして實は甚だ容易なることにあらず、寧ろ、未開野蠻の地方に移住して、最初より獨逸特有の文明を以て開拓し、牢固なる根底を作るの容易なるに若かず。

されば朕が、現在に於て汝等に多く望み且つ獎勵する處のものは、前者にあらずして後者なり、即ち困難なる文明地方の移民にあらずして、容易なる未開野蠻地方に移せんことなり。朕は汝等が、文明の進歩したる地方に移住せんことを希望し獎勵するより以上に未開野蠻の地方に移民たらんことを希望し且つ獎勵す。

然るに汝等は、朕が多く希望し多く獎勵する未開野蠻の地方に移民たることを好まざして、文明の進歩發達したる自由の地方に移住せんことに比較的熱心なり。

平和的世界統一の手段  
之れ朕が多年大殖民經營に熱心しつゝあるに拘らず、其成績微々として大いに成功する能はず、英佛等の諸國に及ばざる所以なり。世界の批評家か、獨逸の大殖民經營は、獨逸の將來に於て有益なるや否やは甚だ疑問なりと評する所以なり。

オ、朕が愛する汝等獨逸帝國の民よ！

汝等は殖民政策が平和的征服手段たることを忘るべからず。同じく世界統一の目的を達するに於ても、慘虐なる戦によりて成功するよりも、平和的手段によりて成功する方、人道に背反せざるものたると同時に、又神意に適ひたるものなるを忘るべからず。

朕が屢々汝等に論告するが如く、朕は決して衷心血を好み戦を欲するものにあらず。朕が目的平和的方法手段によりては到底貫徹し能はざる時に於てのみ、已むを得ず好まざる血を流し欲せざる戦を爲すなり。故に朕は碧血と肉弾とを以て地上を蔽ひ、硝煙と彈雨とを以て日光を遮る戦争を以て全歐征服、世界統一の使命を達成せんよりも

可成的殖民經營の如き平和的手段方法によりて成功せんとことを熱望するものなり。

オ、朕が愛する汝等獨逸帝國の民よ！

然れども汝等は甲乙あるべからず。硬軟あるべからず。一を喜び一を忌避することあるべからず。戦士として世界無敵の強者たると共に、平和的戦士としても世界唯一の勇者たり強者たらざるべからず。軍人たることを無上の光榮とし名譽と思惟するが如く、移民となりて海外に平和的發展を爲すことも大なる光榮とし大なる名譽とし勇往邁進せざるべからず。

オ、朕が愛する汝等獨逸帝國の民よ！

汝等が未開野蠻にして、其風土氣候の本國と大いに異なる地方に移住することを好まざるは、文明の進歩したる地方に於けるが如く自由に文明的歡樂の追求に満足し能はざるが爲なることが、其の第一原因たることは朕能く之れを知れり。

平和的世界統一の手段

然り。風土氣候の異なる未開の蠻地に移民となりて開拓の先従者となることは、大なる忍耐と、大なる努力と、大なる熱心と、大なる艱難と、大なる危険と終始するの決心覚悟あるものにあらざれば、遂に其目的を達し能はざるものなり。

素より未開の蠻地なり。人馬織るが如き都路はあらざるべし。壯大雄偉なる建築物は見るに能はざるべし。輪煥の美を盡したる劇場の空氣を呼吸することは能はざるべし。五色の色美しくしき酒を美麗なる杯に盛り美麗なる部屋の子に椅子に倚りて、微醺の夢の如き柔かく美しき氣分を味ひ試むることは不可能なるべし。其他文明の進歩したる地方に於て慾求し得らるゝ文明的歡樂の満足は購ひ得ざるなるべし。

然れども、微しも人工を施さざる自然の儘の山嶽と原野と河川と樹木と叢草とは、文明の進歩したる地方に移住するものゝ遂に經驗し得ざる天恵あるにあらざるや。自然に豊熟したる果實は、汝等が自由に採るに委せて到る處の山野に充ち満ちてにあらざるや、都會的罪惡の影を映さず、都會的塵煙と都會的病原菌とを混えざる清澄冷涼なる清水は、此處の森蔭、彼處の岩蔭に、滾々として湧き出でつゝあるにあらざるや。鳥

肉も獸肉も、代價を支拂ふを要せず、汝等が欲する儘に獲り、汝等が欲する儘に、食するに餘りあるべく、而も其は悉く生ける儘に山野に充ち満ちて翔り走り戯れつゝあるにあらざるや。

オ、朕が愛する汝等獨逸帝國の民よ！

汝等は、神は自ら助るの人にあらざれば決して助くるものにあらざることを知らざるべからず。而も汝等は特に神に選ばれたる光輝あり名譽ある世界唯一の國民なり、汝等が行く處其背後には必ず神のあり、而して、汝等が艱難に遭遇せる場合、之れを加護すべく、常に汝等を注視しつゝあるなり。朕が命令は即ち神の命令なり、朕が命令に従ひて行動するは即ち神の命令に従ひて行動するなり。故に朕が命令に従ひて行動し、其全力を盡さば、汝等は必ずや神の嘉賞によりて幸福なるを得べきは、朕が斷言し保證するところなり。

平和的世界統一の手段

平和的世界統一の手段  
オ、朕が愛する汝等獨逸帝國の民よ！  
汝等は本國にのみ止まりて生活難の禍因を造るのみが、朕に對し國家に對して忠なる所以にあらざるを知らざるべからず。文明の進歩したる地方にのみ移住するのみが朕の希望し獎勵する移民にあらざるを知らざるべからず。而して其れのみが朕に對し國家に對して忠なる所以にあらざるを知らざるべからず。而も數千哩の海の彼方蠻煙瘴雨の漲れる未開の殖民地に遠征移住し、凡百辛慘と凡百艱難と戦ひ、朕が多年苦心經營に盡力しつゝある大殖民經營を成功せしむは、百萬の敵軍を粉碎したるにも等しき大勳功者たる名譽と賞讃との桂冠を戴くに十分の資格あるものたるを知らざるべからず。

オ、朕が愛する汝等獨逸帝國の民よ！

汝等は往け、奮然として起つて往け、激浪の逆巻く海の彼等に——。而して朕が大殖民經營を成功せしめ、我獨逸帝國をして、より一層廣大なる大帝國たらしめよ——

より一層根底ある強大國たらしめよ——。オ、朕が愛する汝等獨逸帝國の民よ……。

### 六五 獨米戰とパナマ運河

獨米開戦を以て無稽荒唐なるものとして一笑に附し去るものあらば、朕は其人物の迂闊遲鈍、世界の趨勢に通ぜざるを一笑に附せざるを得ず。其人物は獨米開戦を批評し、獨米開戦の荒唐無稽なるを云謂する資格の全然零たることを認めざるを得ず。  
我獨逸の本國と米國の本國との國境的關係は、露國との如く、佛蘭西との如く、奧國、白耳義、和蘭、丁抹、瑞典との如く、一山一水を以て、直ちに相接せず、遠く數千哩の海を隔て、國を成せるが故に、國境を隣接せる國との關係の如く、直接的密關係なきが如しとの觀察見解を以て推論の根據となし、獨米間に開戦を見るが如きは永久殆んど無かるべしと論斷せば、そは即ち表面的觀察たるを免かれず、皮相の見解たるを免かれず、米國の大野心と朕が大計畫とを知らずして、度外視して、等閑視して推想したる無價値の觀察論斷たるを認めざるを得ず。

獨米戰とパナマ運河  
遠き過去に於ては、我獨逸帝國と米國とは、日本と全然無關係なりしが如く無關係  
なりしは事實なり。されど、近き過去より現在に於ては、日本との關係が軍事上、政  
治上、經濟上密接なる大關係を有するに至りたるが如く、また政治上、軍事上、經濟  
上、各方面に於て大關係を有しつゝあり、之れ日本との開戦が早晚免かれ得ざるが如  
く、早晚干戈を執つて相戦ふの時あるを否認すること能はざる處なり。

米國が世界唯一の大寶庫の國たるが如く、南米も亦同じ大寶庫の大陸たることは  
殆んど一の疑問をも許さざる程明瞭にして、今や既に世界各國は饑虎の餌を争ふが如  
く、將來此大陸の寶庫の鍵を獨占せんとして殖民地經營に熱心盡力しつゝあり。

朕も亦既に此に着眼して大殖民地經營を計畫し、既にブラジル殊にリオ、グランド  
洲には多數の移民を有するに至れり、又パヒヤ、ベルナンビューコー及びリオ、ジャ  
ネイロー等に於ける我殖民地經營は大いに成功しつゝあり。

然れども、朕は現在の狀態を以て満足するものにあらず、南米大陸の一小部分を有  
するを以て目的の大部分を達し得たりと爲すものにあらず。南米に於ける我獨逸帝國  
の殖民地經營に就て批評する者は論へり、即ち——獨逸の殖民地經營は大いに成功せ  
りとは謂ふ能はざるも、ブラジル殊にリオ、グランドの洲に於て比較的多數の移民  
を有せり。而してベルナンビューコー、パヒヤ、リオ、ジャネイローに於ける殖民地  
は稍大なる勢力を有す。而して又、獨逸の地理學者の多數は、智利を以て獨逸の殖民  
地となすに最も適し最も有利なる地となし、政治家に向つて、一日も早く此地に向て  
其の政治的勢力を及ぼすべく勸告しつゝありて、政治家亦地理學者の勸告を容れて、  
野心を含める注意を爲しつゝあり、人若し智利の土地の豊饒無比なるを見、而して其  
移民の富有に赴きしを知り、且つ其多數の南港の多大なる利便とを知らば、獨逸が智  
利の前途に垂涎して、野心の鋒鏑を此地に向くるの決して無理ならざるを首肯すべし  
——と。彼等の言は小部分に於ては皮相の觀察と誤謬の見解とを免かれずと雖も大體

獨米戰とパナマ運河

に於ては適中せりと謂はざるを得ず。

朕が南米大陸に向つて力を盡しつゝある殖民地經營の目的は、彼等が論へる如く、一小智利のみならず、其れに猶ほ數個の地域を加へたるものにもあらず、南洋方面に於ける目的が南洋全部の占領にあると等しく、南米大陸を朕が支配權下に置かんとするにあり。智利占領の如きは只だ其の一部分たるに過ぎず。

然れども、一舉にして全大陸を領有に歸せしむることは、決して容易なることにあらずるを以て、先づ智利の如き小部分の占領より着手するの有利得策なるは説明の要なし。

朕が南米に於ける目的既に其大陸全土を我有に歸せしむるにありと雖も、此目的完全に達成せらるゝ迄には幾多の困難と幾多の危険と多大なる犠牲を拂ふの覺悟あるを要す。何となれば、朕が此目的に勇往邁進して漸次其目的を遂行するに至れば、それが爲めに大損害大打撃を蒙る諸國と抗爭せざるべからざればなり。殊に米國の如きは

政治上、軍事上、經濟上總ての點より見て、南米大陸の全土が我獨逸帝國の版圖に入り、朕が支配權下に屬するに至れば、蒙るべき打撃は決して尠少にあらざらばなり。又、現在南米に於て獨立せる諸小邦の如きも、他國の治下に統御せらるゝを欲せざるべく、極力反抗し、例へて征服せらるゝに至るも、屢々獨立を企圖すべければなり。

南米に於ける朕が大殖民地經營の熱心を批評するものは言へり、智利は其土地の豊饒南米中其第一位にあり、又其南部諸港の利便は甚だ偉大なるものなり。獨逸は既に多年之に垂涎して野心の鋭鋒を向けつゝあり。然れども、獨逸が如何に野心を逞ふし戦を銳利にするとも智利を獨逸皇帝の勢力下に置かん事は、殆んど絶対に望みなざることと云はざるを得ず——と。是は朕を人造皇帝と同一視し、我獨逸帝國を歐洲に於ける列國と同一視せる結果の論にして、朕は多少の困難と危険と犠牲とを要すべきも絶対に不可能事なりと思惟せざるのみならず、斷じて行へば必ず成功すべき事を確信す。

朕はパナマ運河を占領せざるべからず、如何なる困難を排しても占領し、朕が支配下に屬せしめざるべからず。何となれば、智利占領に於ける唯一の關門なればなり。智利の大富源を開く唯一の鍵鑰なればなり。智利は南米大陸の大平洋岸に在るが故に、朕が之れに勢力を及ぼさんとするには、パナマ運河を通じて爲さざるべからざればなり。而してパナマ運河の支配權を占有せる北米合衆國は、智利が朕の支配下に屬し、其大富源が獨逸の勢力圏内に編入せらるゝときは、南米の大寶庫を一手に占領せんと企圖しつゝある其の大野心が根底より破壊され、全然齧餅に歸せしめらるゝの大打撃を蒙るが故に、朕が智利を占領せんとすることに極力妨害を試み、殊にパナマ運河を通じて之れを遂行するについては大なる決心を以て對抗防遏すべければなり。世界の批評家が、獨逸の南米殖民政策が智利の富源に手を着けんとするの野心あり企圖あらば其は結局失敗に終るの外なしと論ふは、即ち此意味を含ましめたるものに外ならざるなり。

亞米利加之事は亞米利加にて處分し、斷じて他國の干渉を許さずと云ふモンロー主義は、合衆國年來の國是にして、米國の強大隆盛を加ふると共に、愈々益々強硬となり現に南米に野心を有する歐洲列國は、是れが爲めに甚だ不幸なる結果を來しつゝあるなり。

米國のモンロー主義は、朕が對南米計畫にも小ならざる障害を與へつゝあり。是れが爲めに、過去に於ても屢々難問題起れり、現在に於ても亦、兩國間紛争問題となるべきものは多々あるなり。過去に於て斯の如し、現在に於て亦斯くの如し、將來に於ても、朕が計畫益々進捗するに従ひ、又米國隆盛強大の度を加ふると共にモンロー主義強硬となるに隨ひ、幾多の難問題續出すべきは、確かなる事實として之を豫定し得べし。之れ早晚獨米開戦の免かるべからざる理由なり。而も朕がパナマ運河の支配權を掌握せんとするに於ては、獨米は愈々益々戦はざるを得ざるなり。

### 六六 パナマ運河の價值

パナマ運河の價值

朕はパナマ運河の支配権を米國の手中より奪取せざるべからずと雖も、パナマ運河を奪取し得ざれば、朕が南米大陸計畫は根底より破壊され終るにあらず。パナマ運河はそれ程に朕が南米大陸計畫を左右する大權威を有するものにてはあらず。多くの不便と不経済と困難とを顧みざれば、パナマ運河を通過せずして十分に遂行することを得るなり。

然れども、一たびパナマ運河の支配権朕が掌中に落ちんか、其軍事上、政治上、商業上に於て絶大の利便を得べく、智利占領は固より、南米大陸の全部を獨逸の勢力下に置くことは、甚だ容易にして、此の利便なくして達成せんとする十分の一の盡力を爲して猶且つ百倍の利益を收得す。朕は如何なる困難を排してもパナマ運河を米國の手より奪ひ取らざるべからず。

而も彼れ米國は、朕が南米全土を領有せんとする大企圖あるを未だ知らざるが如しと雖も、尠くとも豊饒なる智利を占領せんとする希望を抱けることは知れり。而して

彼れは海軍を大擴張して其モンロー主義を強確にせんとしつゝあり。然れどもパナマ運河に對する朕の計畫に就ては、彼れは未だ夢想だもなさざるものゝ如し。

### 六七 米國海軍何者ぞ

米國は英領加奈太を併呑せんとするのみならず、墨西哥を略取せんとするのみならず、南米大陸全土を併有し、南北亞米利加二大陸を結合したる大共和國を建設せんとするの大野心を包蔵せることの確かなる事實と認むべきは、彼れが海軍擴張を爲せるにても見るべし。墨西哥に對する態度にても觀るべし、加太奈に對する態度にても看取するに難からず。斯くして彼れはモンロー主義を益々強行し、歐洲列國をして一指をも染めざらしめんとしつゝあり。

或者は言へり。米國の海軍は今日既に非常なる驚くべき増加をなせり發達を爲せり此大海軍を建造したる米國は、今後如何なる場合に於ても、他國との競争に於て讓るが如き事なかるべし——と。

米國海軍何者ぞ



米國海軍何者ぞ  
彼れ米國が今日既に非常なる増加を爲し、驚くべき發達を爲せるは事實なり、此大増加發達を爲せる國は、今後如何なる場合に於ても、他國との競争に敗者とならざるべく思惟されるも、決して根據なきものとは斷ずべからず。此の大海軍の建造によりて彼れの國是たるモンロー主義の行使力は益々強確となれりと思はるゝも、決して理由なきものとして排すべきにあらず。

されど、朕は米國大海軍が、果して實力ある大海軍なりやを疑はざるを得ず。今後如何なる場合に於ても他國との競争に常に優勝者たり得るやを頗る疑問とせざる能はず。殊に南米に於けるモンロー主義の遂行が大權威として果して他國の野心を逞ふるの餘地を與へざるを得るや否やを疑はざるを得ず。

彼れは英國が自から稱するが如く自から大海軍を有せりと誇れり。然れども、彼れが自から誇る大海軍は其實力と大なる距離を有する大海軍なり。彼れの大海軍は大型戰艦を多數有せりと云ふの意味なり、大巡洋艦の隻數を多く有せりと云ふの意なり、

即ち艦艇の數を多く有せりと云ふの意なり、即ち合計噸數の大を以て大海軍なりとさせるの意なり。英國が世界唯一の大海軍なりと自稱する裏面が、實力なき憚むべき大海軍なるが如く、彼れ米國の大海軍なるものも、所謂英國の所謂大海軍なるものと同じ異曲の大海軍なり。大同小異の大海軍なり。

精神なく活動力を有せざる大木像に等しき大海軍を擁して、如何なる場合に於ても、他國との競争に譲ることなしと稱する米國は、英國が世界第一の大海軍なりと誇稱するにも拘らず、其實力の案外微弱にして憫笑すべきこと世界第一と云はざるを得ざるが如く、頗る滑稽に價すと謂はざるを得ず。實にや米國の海軍は外形のみの大海軍にして、戦らしき戦を爲し得る實力なき海軍なり。米國の海軍は形式的海軍なり、裝飾的の海軍なり。看板的の海軍なり。恐るゝに定らず憂ふるを要せず。

### 六八 獨米海軍實力は一對十

獨米海軍實力は一對十

獨逸海軍實力は一對十  
或者は評せり、獨逸皇帝が南米に於ける大企畫を捨てざれば、勢ひ米國大海軍と匹敵し得る海軍力を造らざるべからず。而して此海軍を造らんとせば、少くとも年々四億馬克の海軍擴張費を帝國議會に協賛せしめざるべからず。而も斯くの如き巨額の海軍費は、皇帝如何に熱心に要求すとも、國民は決して承諾すること無かるべし、何となれば、既に今日に於てすら獨逸國民は陸海軍費の多きに堪へず、常に不平の聲を擧げつゝあればなり——と。

然れども、斯くの如き批評は、米國海軍と我獨逸帝國の海軍とを同一線上に並列せしめて比較したる批評にして、批評の根本を誤れるものなり。即ち、斯くの如き比較論を試みるものは、朕が何者たるかを知らざるものなり。朕が神聖皇帝にして如何なる大使命を有するかを知らざるものなり。朕が獨逸皇帝なれるは、何の爲めなるやを知らざるものなり。獨逸帝國國民が如何なる點に於て他國民と異なるかを知らざるものなり。而して其大使命を有する朕が造りたる海軍が如何の實力を有せるかを知らざるものなり。

米國の海軍の實力が、實戰に於て脆弱なるものなることは、彼れの造船術と艦艇の首腦たる將校の頭腦手腕とに徴して明かなり。彼れの造船術進歩の程度を我獨逸帝國のそれと比較すれば、迥かに拙劣幼稚なり。彼れの海軍將校と朕が海軍將校との頭腦手腕を比較すれば、殆んど比較するの不倫なる程に相違あり。朕が米國海軍の決して恐るゝに足らざるを確信する理由實に此に根底せり。故に一朝彼れと戦端を開く場合我獨逸海軍は一隻の戦艦を以て優に彼れの戦艦十隻と戦ひ、決して遜色なきを信ず。

若し我獨逸海軍が世界に於て恐るべき強敵海軍ありとせば、其は英國にあらず、露國にあらず、佛國にあらず、又米國にもあらず、實に極東の豆大國日本海軍なり。彼れは日露戦争の際優勢なる露のバルチック艦隊を見事に粉碎せり、彼れは僥倖にして斯くの如き奇蹟的勝利を得たるにあらず、彼れは實際に於て露國海軍より迥かに優れり、其戦術に於て——、其技術に於て——、其勇氣に於て——。而して彼れの戦術

獨逸海軍實力は一對十

獨米海軍實力は一對十  
と技術と勇氣とは、常に露國に優れるのみならず、英、佛、米等の所謂列強諸國に遙かに優れり、我獨逸を除くの外全世界に於て、彼れの海軍に對抗して優に勝利を占め得べきものもあるなし。之れ朕のみの意見にあらず、彼れが露國との戰に於ける實蹟と、其後の研究と努力との結果は確實に明かに之れを證せり。

假令、百歩を譲りて、或者の論ずる如く、米國の大海軍が實力充實せる強大なものとし、我獨逸帝國が是れに匹敵すべく海軍の大擴張を要すると爲すも、彼等の思惟するが如く朕は決して苦しむを要せざるなり。朕が他國の其れの如く、人造帝王なりせば、或は海軍大擴張費に苦しまざるを得ざるやも知れずと雖も、朕は神の命によりて生れ、神の命によりて獨逸皇帝となれり、又國民は神に選ばれたる優良なる國民なり。光輝あり名譽ある國民なり。朕が神の使命を有すると共に彼等も亦、朕が手足となりて朕が希望し目的とする所を遺憾なく遂行せざるべからざる使命を有する國民なり。神意を以て行ふ朕が企圖に對しては、彼等は絶対服従あるのみにして、賛否を

唱へ諾否を議するの權利を有せず。朕が意の儘に命の儘に服従せざるべからず。而も我獨逸帝國將來の運命を左右する海軍擴張に對して、國民が不賛成を唱議するの理由あるなし。朕は、舉國一致必ずや大海軍建造を進捗せしむべきことを信じて疑はず。

朕は現在既に陸軍の大擴張を行ひつゝあると共に、亦海軍の大擴張を實行しつゝありて、茲數年の後には、世界第一と誇れる英國大海軍を壓倒するに十分なる雄大なる海軍を遊弋せしむるに至るべし。此大計畫完成の曉に於ては、米國海軍如何に強且つ大なるも、所詮英國海軍を凌ぐ能はざるべきを以て、朕は易々として是れを擊破するを得べし。第二流の米國海軍何ぞ恐憂するに足らんや。

### 六九 朕とビスマルク

我獨逸國民にして、朕が行爲を非難し、朕が爲さんとする又爲しつゝある計畫企圖に對して反對を唱へ、且つ妨害を加へんとするものあれば、或は、朕が思想に相背反

朕とビスマルク

朕はビスマルク  
したる非獨逸思想を抱懐し、煽動的教唆的言論行爲を敢てし、朕に絶對服従を肯んぜざる非國民あれば、斷じて是れを寛容し置くこと能はず、斯くの如き不忠不臣の徒輩あれば、其人物が宰相の高官たるに、鐵劍を肩にする微々たる農夫たるを問はず、飽くまで其罪に問ひ、斷乎たる處分を爲さざるべからず。之れ神の意志を無視し我獨逸帝國の將來を危殆に瀕せしめんとするものなればなり。嘗て朕が、朕が祖父ウイヘルム一世の忠僕ビスマルクを處分したるも、即ち彼れが朕に對して絶對服従を肯んぜざりし不忠不臣の罪ありしが故なり。

ビスマルクを賞讃的に崇拜的に評する者は言へり。彼れは洋の東西を問はず、時の古今を論ぜず、同一線上に置かれて比較評論せらるゝに足る一人をも有せざる世界的大政治家なりき。彼れは獨逸大帝國建設の歴史に特筆大書して絶對の賞揚讃辭を呈すべき大功臣にして、獨逸帝國の今日あるは實に彼れありしが爲めなり。若し今日の獨逸に全盛時代の彼れ在らしめば、歐洲の天地は彼れの巧妙絶倫なる外交によりて自由に左右されたるなるべく、獨逸帝國をして全盟主國たるの偉觀を實質的に贏

ち得たらしめしなるべしてふことは決して彼を崇拜的に激賞する餘りの空想とのみ排すべからず——と。

彼れビスマルクは、歴史家、批評家等が感嘆激賞する如く、果して大政治家なりしか? ……果して大人物なりしか? ……果して彼をして今日の獨逸にあらしめば自由自在に全歐洲の列國を操縦し我獨逸帝國を實質的に全歐の盟主たらしむるを得たりしなるべきか? ……

然り、朕は否まざるべし、彼等歴史家、批評家の賞讃するが如く、彼れが我獨逸大帝國建設に於て大勳功を樹てたる功臣たることを否まざるべし。彼れが朕が祖父ウイヘルム一世に對して徹頭徹尾補弼の任を完ふせし忠僕たりし事實を否まざるべし。又外交に於ける彼れの手腕が能くウイヘルム一世をして思ふが儘に事を爲さしめ、隠然全歐の盟主たるに至らしめたる功績の顯著なりしことを否まざるべし。

彼れは斯くの如くウイヘルム一世に忠勤怠りなかりしと雖も、朕に對しては甚だ

朕はビスマルク

忠實ならざりしと言はんよりは、寧ろ、朕を暗愚庸劣なる人物の如く輕視し、絶對服従を爲さず、權勢を專にせんとするの事實ありきと云ふの適當なるを斷言せざるを得ず。即ち彼れはウイヘルム一世の忠僕にして朕が忠僕にてはあらざりき。之れ、朕と彼れとが常に肝膽相照すること能はざりし原因なり。彼れが永眠する迄朕に對して衷心忠實ならず、朕も亦彼れが冥目する迄憎惡の念を忘ることなかりし唯一の理由なりき。

第一にビスマルク讒言

七〇 第一にビスマルク讒言

朕が即位の當時、彼れは、朕を何等の經驗をも有せざる乳臭兒として對せり。而して彼れは、其の思ふが儘に朕を指圖し、思ふが儘に己が意見政策を行はんとせり。朕を彼の人造皇帝に見るが如き無意義なる皇帝として祭り込み、自から總ての實權を掌握せんと欲せり。彼れは常に私に朕を冷笑して、ウイヘルム二世彼れ何者ぞ、彼れは其ボン大學に於て乘馬と、決闘と、飲酒との惡習の間に教育を受けたる一青年

ならずや、彼れ今俄かに皇位を踐祚すと雖も、天下國家に處して何事をか思惟し得んや、何事をか爲し得んや——と思へり。

彼れは斯くの如く朕を輕視せり。彼れは斯くの如く朕を乳臭兒視して自己の野心を逞ふせんとせり。朕と彼れとが常に融和圓滿を缺きたるは彼れに此の不忠不臣の精神あり野心ありしが故なり。彼れが永眠せし後と雖も、朕が、噫々逝けり、獨逸帝國の恩人ビスマルクは逝けり。ウイヘルム一世の忠僕にして又ウイヘルム二世の忠臣ビスマルクは遂に逝けり——と追懷愛惜の紅情を有つこと能はざりしは、實に、彼れに斯くの如く不臣不忠にして朕に絶對服従を爲さざりしが故なり。

朕は彼れを憎めり。即位前ボン大學に在りし頃より彼れに好意を有つこと能はざりき。彼れがウイヘルム一世唯一の功臣たるに慢心して專横を極むるを憎めり。彼れが獨逸帝國建設の大勳功者たるの故を以て慢心し、專横を極むるを憎めり。自己の政治的外交的手腕が比較的大にして當時匹敵すべき者一人も無かりしに慢心し專横

第一にビスマルク讒言

第一にビスマルク誠首  
暴を極むるを憎めり。己れの意見政策に基きて總ての事を專断せんとするを憎めり。朕が即位後に於ける彼れの専横は益々増長し、朕を有れども無きが如くに取扱はんとするを憎めり。朕は皇帝となるべき日の近づくと共に私かに思へり、朕が即位後、皇帝として第一に爲さるべからざる緊急事は、社會黨にあらずして、皇帝を輕視し專横に至らざるなき大不忠僕ビスマルクの誠首にあり——と。

朕は、必ずや彼れが反對すべきを豫期して英國、土耳其、希臘の諸帝を歴訪し、國交を暖めんことを發表せり。果然！、彼れは朕が此の訪問計畫に反對せり。陛下よ、陛下が行はせられんとする訪問計畫は、帝國の國際的地位より考ふれば、畢竟外交的大失錯に歸すべきは明かなることにして、陛下が思惟し給ふが如く成功することなれば、臣が言を容れられて断然中止せらるゝを可とす——と極力反對せり。  
朕素より彼れが言ふが如く朕の計畫が成功することあらざるべきを知らざるにあらず、知らざるにあらずと雖も、朕は断然訪問計畫を實行せざるを得ざりき、何となれば、

ば、之れ朕が外交的成功を得んとする希望より出でたるにあらずして、ビスマルクを憎惡するの餘に出でたる計畫なりしものなればなり。彼れの専横を憎むの情は、失敗に終るべき訪問計畫を強いて爲さるるを得ざる程に強烈なりければなり。

朕は、訪問計畫實行の結果が、必ず成功すべしとは信ぜざりき、寧ろ失敗に終るべきを豫期したりき、然れども朕は彼れの反對を斥けて断然實行せり。  
或は言ふ者あらん、失敗すべきを豫期しつゝ、尙ほ是れを行ふは甚だ愚策ならずやと然れども、朕が失敗に終るべきを豫期しつゝも、猶ほ敢て之れを決定せしは、外交的希望より出でたるにあらずして、彼れビスマルクに對する第一宣戰の計畫なりき、即ち是れによりて、彼れに朕の信頼が些しも彼れにあらざることを自覺せしめ、自ら辭表を提出せしめんが爲めの計畫にてありしなり。

朕が訪問計畫に反對せしは、獨り彼れビスマルクのみにてはあらざりき。外務省内

第一にビスマルク識首  
に於ても彼れと同一の意見を有するものありしのみならず、彼れの意見政策を注意周  
密なるものとして賛成し、朕が計畫の無謀なるを嗤ふ者ありしが故に、斷然是等の徒  
は悉く罷免し、朕が好める人物にして又朕が計畫に賛成する者のみを以て更迭せしめ  
たり。

朕が訪問計畫は朕が豫期せしが如く成功すること能はざりき、されど之れ朕の意志  
が最初より成功を期し居らざりしが故に、心中些しも悔ゆる所なかりき。又外務省に  
於ける更迭の結果も、甚だ良好にして非難すべき點なきまでの成績を擧げ得たりとは  
言ふ能はざるも、固之れ朕の計畫が對ビスマルク宣戦にありしが故に、彼れの一味  
を誅首して一時的なりとも大打撃を加へたるは痛快事なりき。  
斯くて朕は専横なるビスマルクをして、自から辭表を提出するの已むなきに至らし  
むべく作戦し計畫を廻らしたり。

### 七一 不忠漢ビスマルク

彼れビスマルクは、己れの不忠不臣なるを顧みずして、朕が缺點失敗を摘發せんと  
せり。訪問計畫の際に於て、朕が彼れに何等の相談をも爲さず、自由に任意に外務省  
の人物を交迭せし事に對しても、彼れはブルム博士に語りて曰へり、皇帝が余に何等  
の諮問をも發せられず、無謀なる交迭を行はれたるは、是れ余に加へられたる非常な  
る痛撃なりき。而も余は各部に無能の人物任置せられて、外交の甚だ危きを見たり、  
是れ余の心中言ふべからざる大苦痛なりき——と。

朕は斯くの如き人物を宰相として任用することを好まず。斯くの如く己れを曲庇す  
ることのみに力めて其君主たる者の非を摘發せんとする不臣の徒をして國家を料理せ  
しむる事を好まず。

朕が皇帝となりて未だ多くの時日を経ざる一日、神は髣髴として朕が眼前に現はれ  
朕がホーヘンツォルレン家に生れたるは神の命によりて生れたるものなること、而

不忠漢ビスマルク

不忠漢ビスマルク  
して皇帝となれるも神の命によりて成れるものなること、而も其は世界統一の神意を達成せしめんが爲めなること、又朕を補弼するにビスマルクを以てすべきを告げたることありき。朕は直ちに此事を彼れに語りしに、彼れも亦、朕と同日同刻に朕を補けて世界統一の大業を完成せしむべき神命に接せりと語れり。之れ朕の記憶には今尙ほ儼然として印刻せられある所にして、彼れビスマルクも亦、記憶に新たなるべき筈なり。

然るに彼れは、忠實に朕を補けて其の大使命を遂行せしめんとせざるのみならず、却つて朕を無經驗なる乳臭兒なりと輕視し、自己の意見政策を恣まに行はんとせり。之れ朕に不忠なるものたると同時に神意を無視し蹂躪せるものにあらずして何ぞや。朕は神に對する責任上よりしても、彼れの如き神命を無視し君主を輕視する不忠漢を以て、朕が代理者とも云ふべき宰相の位地に任用すること能はざるなり。

神を信ぜざるものは神護を受くること能はず。神を恐れず、神の命に背反する者は

遂に罰せらるべし。彼れビスマルクの如き、神を信ぜず恐れず神命を無視し、而も神より大使命を與へられて獨逸皇帝となれる朕を輕視して横暴專恣を極めんとする者は、管に朕より處分せらるゝのみならず、國民の信望を失墜して悲惨なる運命に陥るべし

七二 慎重に判断せよ

一千八百九十年二月四日、朕が勞働保護政策に關する詔勅を發したるに就て、ビスマルクに同情を有する者は、朕が此新政策を發表せし裏面の消息として論へり、即ちウイヘルヘルム二世と老相ビスマルクとの争鬭の序幕は、既に外務省の大交渉問題に於て演ぜられたり。而して世人が期待したる第二回の衝突は社會黨に對する政策問題に於て演出せられたり。元來獨逸に於ける社會黨の政治的勢功は頗る猛烈にして、決して樂觀すべきものにあらず。故に老相ビスマルクは常に苦慮慘憺其勢力の増大振興を防遏するの政策を遂行したり。即ち老相は社會黨に對する政策としては溫和の政策を以てするの甚だ不利なるのみならず、却つて彼等の勢力を増大せしめ跋扈せしむるの

慎重に判断せよ



慎重に判断せよ

結果となるが故に、政府の威力を擧げて極力之れを鎮壓する方法を講じつゝありき。然るに新帝ウイルヘルム二世は、峻厳なる政策は却つて彼等を激昂せしめ、反感を益益大ならしむる所以なれば、温和なる方法を以て彼等の感情を和らげ、巧妙に籠絡し操縦するの有効なるに若かずと、老相と全然反対の意見を有したりき、然れども老相は頑として皇帝の意見に反対し、依然威力を以て鎮壓するの方針を取れり。此に於て皇帝は隠謀を企劃して老相の政策を破棄し、自己の意見に基ける政策を行はんとせり。即ち、一千八百九十年の初頭、寒氣の凜烈なる爲め老相が持病の癩瘵質斯に惱みつゝありしを奇貨とし、内閣員を操縦し老相をして伯林を去らしむるの方法を講ぜり。内閣員一同は病氣見舞と稱して老相を訪問し、老相に勸めて曰く、閣下の健康には休養甚だ必要なれば、海濱或は田舎に赴かれ、暫時静養せらるべし、政治上の問題が斷へず神經を刺戟する伯林は、閣下の健康に有害なること實に甚だし——と、真情を以て説が如く言葉を盡して勸告をなせり。老相ビスマルクは、眞に彼等一同が同情より勸言し呉れるものと善意に解し、其の親切を感謝して之れに従ひ、悦んで伯林を去り、

老相の神經を刺戟せざるに適當なる田舎の閑境に静養せり。然るに何ぞ測らん、老相をして伯林の地を去らしめたるは、眞の親切にあらずして隠謀にてありき。ウイルヘルム二世が老相に伯林を去らしめ、其間に乘じて自己の意見政策を行はんが爲めの奸手段なりしなり。故に老相伯林を去るや、皇帝は直ちに勞働保護の詔勅を發布したり。此詔勅は皇帝の所謂社會黨に對する新政策にして、社會黨の主義に同情し、其の政策を是認したるものにして、皇帝は此の詔勅によりて社會黨の歡心を買ふに充分にして其強烈なる敵對を避け得べしと信じたるなりき。然かも斯くの如き政策は、ビスマルクが以て彼等の勢力を益々強大ならしむるものとして斷じて賛成せざる所なり。皇帝が隠謀を廻らしてビスマルクを伯林より去らしめたるは即ち是れが爲めなり。而して又、詔勅の發布には宰相の署名を有せざるべからざるの慣例なるに、ビスマルクと根本的に相容れざる政策にビスマルクが絶対に署名を拒むは、殆んど明白なる事實なるが故に、皇帝は慣例を破棄して宰相の署名を省ける詔勅を發布せり。皇帝が内閣員を籠絡し、老相を伯林より去らしめたるは、此詭計の必要ありしが故なり。而して此の

慎重に判断せよ

慎重に判断せよ  
新政策は、皇帝が豫期したる所の如く、果して好結果を得たりしや。否々、結果は全然反對の現象を造れり。即ち社會黨は、皇帝が遂に社會黨の前に降服したるものとなし、新政策を侮り益々勢力を縦にする結果を來せり。老相之を聞きて愕然として驚き、且つ、激怒痛忿せしと雖も亦如何ともすること能はざりき。これ即ち皇帝とビスマルクとの争闘にして、ビスマルクが大皇帝とに欺かれ陥れられたるなり——と。

これ、甚だしく事實の真相を誤れるものにて、朕を侮辱せるの甚だしきものなり。朕固より彼れビスマルクを好まず、彼れの如き不忠不臣なる老獍政治家を信任することと欲せず。されど朕は彼れに對して隱謀を企劃したること一もあるなし。朕が獨逸皇帝となれる事情が、他國に於て見るが如く、國民によりて擁立せられたる帝王なりせば、或は其の帝王の家に生れて即位せるものならんには、或は其意見政策を行ふ場合に於て國民及び國民の代表者及び宰相等に相諮りて爲さざるべからざる

べしと雖も、朕は國民に擁立せられたる帝王にあらず、又其帝王の家に生れて位を即けるものにもあらず、即ち人造帝王にてはあらざるなり。

朕は、屢々國民に説き諭せるが如く、神の使命によりてホーヘンツォルン家に生れ帝位に陞れるものなり。即ち神聖なる皇帝にして朕が權力は絶對なり。神以外何者と雖も朕に抱束を加へ又朕が權力を侵害すること能はず。

朕が政策を行ふ場合に於ても、朕は神の意志によりて行ふが故に、何人と雖も朕が政策に容喙することを許さず、朕が意の儘に決し朕が欲する儘に行ふ。而して其政策を實施したる結果が豫期に全然相反することあるも、朕は神のみに責任を有し、議會に對しても國民に對しても毫も責任を負ふ必要なし。

故に一千八百九十年二月四日に發布したる社會黨に對する政策の如きも、ビスマルクの意見政策が、朕の意見政策と、全然相反なりとするも、朕は彼れの意見を聞き政策を聽き、之れに従はざるべからざる理由なし。朕が自己の意見政策を行ふも、彼

慎重に判断せよ

慎重に判断せよ。  
れの意見政策を採用するも、彼れの意見政策を参考的に諮問するも、其は朕が必ず為さざるべからざる事にあらずして、朕が勝手なり、任意なり。

是れを以て觀るも、朕が、ビスマルクに對して隱謀を企劃する何等の必要も之れ有らざるを知るべし。彼等は、朕が内閣員を籠絡して、ビスマルクを伯林より去らしめ其不在に乗じて新政策の詔勅を發布せりといへど、絶對權の朕が、如何にビスマルクと全然相反したる新政策を行はんとするにもせよ、彼れを恐るゝの要何處にありや、彼れをして伯林を去らしめんが爲め、内閣員を操縦するの必要何處にありや。彼れが内閣員の勸言に従ひて伯林を去りたると、朕が新政策を發表したるとが、偶々同時なりしより、斯くの如き誤解を生ずるに至りたりと雖も、朕はビスマルクを恐るゝの要なく、又隱謀を以て彼れを伯林より放逐し其間に乘じて新政策を行ふの要なきなり。朕は神の意志によりて政策を行ふものなるが故に、神のみに責任を有し國民に對しても議會に對しても全然責任を有せざるものなるが故に、朕は何時にても任意に任意の

政策を行ふことを得、宰相と雖も決して容喙するの權能なきなり。

### 七三 ニコラス二世は人造皇帝

朕が神の命によりてホーヘンツォルレルン家に生れ、神の使命を果すべく獨逸人の皇帝となれる神聖なる世界唯一の皇帝たるを知らずして朕を評するものは論へり。ウイヘルム二世は、頗る專制的君主にして、其專制の度は、寧ろ露國皇帝ニコラス二世よりも甚だし、見よ、今日獨逸官界が如何に皇帝の人格の勢力に支配せられつゝあるの甚しきかを。世界に於て吾人は斯くの如き例を多く擧ぐることはせず。内閣の組織は言ふに及ばず、陸軍の將官より、海軍の總督に至るまで、すべて皇帝の意志によりて、皇帝の愛好心によりて、其の地位を左右せられつゝあるなり——と。

彼等が平凡なる眼に視、平凡なる耳に聞き、平凡にして疎漫なる頭腦より判断せば或は朕が專制君主の如く思惟せらるゝなるべけれど、之れ、朕が專制君主の如く故に然思はるゝにあらずして、彼等が餘りに人間的なるが爲め、朕を眞に理解すること

ニコラス二世は人造皇帝

ニコラス二世は人遣皇帝  
能はざる結果に外ならざるなり。彼等は内閣の組織は勿論、陸海軍の高官其他官界のすべての方面に於ける人物が、すべて朕の愛好心、朕が意志によりて左右せられつゝありと言へるも、朕は如何なる微事細事に於ても、決して朕自からの意志によりて、愛好心によりて爲さず、神の意志に據りて爲し神の愛好心に從ひて決す。故に、彼等の眼より見て、朕が意志によりて爲せるが如く見ゆるは、其實朕が意志にあらずして神の意志なり。朕が愛好心に因りて左右せるが如く見ゆるは、其實朕が愛好心にあらずして神の愛好心なり。

又朕と露國皇帝ニコラス二世とを同一線上に置きて比較評論せるは、甚だしき失當たるのみならず、朕に大なる侮辱を加へたるものと言ふべし。

彼れニコラス二世は露國の皇帝なりと雖も、朕が獨逸人の皇帝たるとは、根本に於て相違せり。朕がホーヘンツォルレン家に生れたるは神の意志によると雖も、ニコラス二世は神の意志によりて生れたるものにあらず。朕が獨逸人の皇帝となれるは、神

が其使命を完成せしめんが爲めに特定したるものなりと雖も、彼れニコラス二世は只だ偶然に何の使命をも有せず皇帝となれるものなり。即ち只だ單に露國皇室に生れたるが爲めに帝位に即きたるものなり。

故に、彼れは武力を以て帝位を贏ち得たる者の子孫に生れたる人造帝王なり。彼れが專制的なるは神の使命神の意志によりて專制的なるにあらずして全く彼れ自からの意志によれるものなり。即ち、彼等が野蠻的なりとして排斥する所の眞の專制皇帝なり。

### 七四 朕は專制君主にあらず

朕を評して專制君主なりと論ふ者よ。

汝等は朕を評せんとするに先ち、朕を研究せよ、朕が何者たるかを識れ、朕がホーヘンツォルレン家に生れたるは、ホーヘンツォルレン家の相續者たるべき意味のみならずして、世界の總ての人類に永遠無窮の平和と幸福とを與ふべく、全歐征服、

朕は專制君主にあらず

朕は専制君主にあらず

世界統一の大偉業を達成せしめんとする神の意志によりて生れ來れるものなることを  
知れ。それ等の全部を研究知識し盡せば、朕が國民によりて擁立せられたる皇帝にあ  
らざることも、國民によりて擁立されたる皇帝の子孫にあらざることも、又、皇帝た  
るべく神の使命をも有せず、國民よりも推戴せられず、只だ自己の野心に驅られ、武  
力を以て征服し、皇帝たることを宣言したるものにあらざることも、また其等の子孫  
にてもあらざることも、即ち人造帝王にてあらざること首肯し得べし。  
而して、朕が神の意志によりて特に生れ來りたる神聖なる神造皇帝たるを否認し得  
ざることも明白となるべし。朕が萬知萬能力を具備したる現實の超人たるを否認し得  
ざることも明瞭となるべし。朕が専制君主なるが如く見ゆるは、其實神の意志により  
て萬事を裁決するものにして決して人造帝王中に見るが如き専制とは全然相異せるも  
のなることを否認すること能はざるべし。

朕を評して専制君主なりと誣ゆる者よ。

朕は、汝等が朕を眞に研究し知識し盡して朕を評するものならんには、何事をも言  
はざるべし。寧ろ、朕は汝等の評論を聞かんに喜び、且つ、熱心なるべし。然れ  
ども、汝等が、單に朕の言語動作に據りて皮相的觀察を下し、盲目なる批評を試むる  
に對しては、決して寛容すること能はざるなり。不問に附し置くこと能はざるなり。  
何となれば、斯くの如き批評は朕を天下に誤解せしむるものなればなり。而して其れ  
が爲めに、朕が神の使命を遂行する上に於て、大なる障礙を來すものなればなり。或  
は其れが爲めに、遂に朕は神の使命を果すことを得ざる結果を生ずるやも測り知るべ  
からざればなり。光輝あり名譽ある我獨逸帝國をして前途を暗黒ならしめ、遂に世界  
地圖上に獨逸帝國を見ること能はざる不幸なる結果を來すべき動機を作ることなしと  
斷言し得ざるものなればなり。

朕を評して専制君主なりと倣す者よ。

汝等は、朕を批評せんとする前に、先づ朕が何者たるかを研究せざるべからず、こ

朕は専制君主にあらず

英雄偉人に對する敬意  
れを研究し悉し。然る後冷静に判断を下し、批評を試みざるべからず。

七五 英雄偉人に對する敬意

朕は、朕が皇帝たるの故を以て、神の意志によりて獨逸人の皇帝となれるの故を以て、萬知萬能力を有する現實の超人たるの故を以て、朕以外の者は、其何人たるを問はず、下等視し、侮蔑し、獨り自から尊ととするものにあらず。朕が勢力に關與せざる有名なる人物、即ち英雄偉人に對しては、特に大なる注意を拂ふことに怠らず而も其英雄たり偉人たる者が、獨逸人たると外國人たるとを論せず、常に大なる注意を拂ひ、機會を捉へては常に之れに大なる敬意を表することに甚だ熱心なり。

朕が、内外の英雄偉人に向つて、常に大なる注意を拂ひ、常に機會を捉へては是れに大なる敬意を表しつゝあることは、政治上の必要よりして、之れを爲すこと無きにしもあらずと雖ども、斯くの如き場合は甚だ稀有の事にして、其の多くの場合に於て

は、其の人格、其の事業、其の勳蹟に對する賞讃の念禁ずべからざるものありて是れを爲すなり。

朕を評してドンキホーテ式なりと論ひ、或は誇大妄想狂なりと言ひ、或は大野心家なりと云ひ、或は大侵略主義者なりと謂ふ者は、朕が常に世界の有名なる人物に向つて大なる注意を拂ひ、且つ機會あるごとに大なる敬意を表するを以て、全然政治上の必要より爲すものにして、其の人格、其の事業、其の勳蹟に對する賞讃の念溢るゝものありての結果にあらずと論ずる者多し。

されど、彼等の眼に然るが如く見え、彼等の心に然るが如く思惟せらるゝは、彼等が朕を誤解せる結果なり。朕が全世界の現代に於てのみならず、古今東西匹疇なき大英雄たることを知らざるが爲めなり。朕は神の意志によりて獨逸人の皇帝となれる大英雄にして而かも現實の超人なり。眞の超人にあざれば眞に超人を解すること能はず。眞の英雄にあざれば眞に英雄を解すること能はず、眞の偉人にあざれば眞に

英雄偉人に對する敬意

英雄偉人に對する敬意  
偉人を解すること能はず。朕が世界の有名なる人物に向つて常に大なる注意を拂ひつゝあるは、朕親からが大英雄にして眞に彼等の人格を解し、事實を解し、勳績を解して賞讃の念を禁ずる能はざるが故なり。朕が常に其等の大人物に向つて常に機會ある毎に大なる敬意を表しつゝあるは、即ち、英雄にして始めて英雄を知る結果、衷心より大なる敬意を表しつゝあるなり。彼等評者の言ふが如く、朕が是れを爲すは、——彼等有名なる人物の人格、事業、勳績に對する賞讃の念堪へざるものありて爲すにあらずして全く政治上の必要よりして爲すもの——にてはあらざるなり。

朕が、大なる注意を拂ひ、又機會を捉へて敬意を表せる人物は決して尠少なりと言ふべからざるを信ず。佛蘭西の老將軍カンロペーは、朕が注意を拂ひ且つ敬意を表したる人物中の一人なり。カンロペーの人格を知り、頭腦と手腕とを知り、且つ歴史に熱心に忠實なる記憶を有するものは、カンロペーの名を聞くと同時に、直ちに一千八百七十年八月十六日サン、ブリツアーに於ける出來事を記憶の新たなる部分より呼び

起さざるを得ざるなるべし、即ち、一千八百七十年八月十六日サン、ブリツアーに於て我獨逸の近衛兵を、殆んど全滅せしめたる佛蘭西に取りての大勳功を思はざること能はざるべし。

朕が何故に彼れに敬意を表したるかを問ふことなかれ。彼れがサン、ブリツアーの大激戦に、善防善戦し、遂に我精銳なる獨逸陸軍中の最精銳を以て誇る近衛兵を、殆んど全滅せしめたる勇敢なる一快事は、彼れの頭腦非凡にして手腕亦拔群なるを確實に證明し、朕が滿腔の敬意を表するに十分なる價值を有するにあらずや。而して、朕は、巴里に駐在せしめたる朕の大使より彼れが逝去せりとの事實を傳奏し來るや、直ちに彼れの女婚にして其副官たりしナザアセル中尉に親東を送れり、即ち、

朕の大使は、カンロペー將軍の訃言を朕に傳へたり。朕及び朕の近衛兵は、サン、ブリツアーの勇敢なる防戦者に對して、哀悼の情に堪えず。

と。又、米國大統領マツキンレーも、朕が敬意を表したる一人なり。而も彼れが、パツファローに於て暗殺の非命に斃るとの悲報を受取るや、朕は此の世界的人物が非命

英雄偉人に對する敬意  
に殘れたるに愕然たらざるを得ざりき。新世界の貴き子を喪失せる損害に愁然たらざるを得ざりき。朕は直ちに電報を發して、衷心よりの哀悼と滿腔の敬意とを表せり。

即ち、  
新世界の此の貴き子は、最高の義務——國家元首の義務——を盡しつゝ撃たれて死せり。

と。彼れの人格を知り、彼れの事業を知り、彼れの新世界に盡したる勳績を思ふ者は朕が彼れを衷心より哀悼し滿腔の敬意を表するの所以を怪まざるのみならず、朕と等しく哀悼と敬意とを表せざるを得ざるべし。

噫々一千八百九十一年八月二十五日、朕は朕が現世を辭せざる間、此の日を記憶より、忘るゝこと能はず。此日我光輝ある獨逸帝國の建設に與かりてビスマルクと共に大勳功ありしモルトケ將軍は死せり。恰も朕は伯林に不在なりしが、此訃報朕の許に來るや、朕は如何なる形容詞を以てするも盡し能はざる大なる驚きと悲みとを爲さ

るを得ざりき。朕は直ちに、

モルトケは、神の測るべからざる命によりて死せり。朕は、此の大打撃を受けて、爲すべき所を知らず。朕は今一大軍を失へり。此の損失は、如何なる方法を以てするも、償ふこと能はず。

と電報を以て哀悼し敬意を表したり。

朕がモルトケの死を哀悼したる電報について、朕が機關新聞以外の多くの新聞は、朕及び死せるモルトケに對して侮辱的言を弄せり。即ち、——モルトケ將軍の死に對する皇帝の讚辭は、寧ろ滑稽なる讚辭と言はざるを得ず。何となれば將軍は既に久しく其職を退き、獨逸陸軍の爲めには殆んど何事をも爲さずして、唯だ靜かに其の老を養ひつゝありたればなり。即ちウイヘルム一世の爲めには片腕以上の大功績を擧げたりと雖も、ウイヘルム二世の爲めには殆んど何事をも爲さざりしが故に、今ウイヘルム二世が、朕は今一大軍を失へりと云ひ又は此の損失は如何なる方法を以てするも到底償ふこと能はずと、如何にも大打撃を受けたる如く誇言せるは、事實を無視

英雄偉人に對する敬意



せる空虚なる讃辭と云はざるべからず。勿論、モルトケ將軍は獨逸帝國の大功臣なるが故に、其死するに及んで、皇帝より多大の讃辭を受くるは怪しむべきにあらずして誠に當然の事なりと雖ども、斯くの如き功臣を斯くの如き辭によりて賞讃するは、決して當を得たるものと言ふべからず——と。

彼等は朕と共に、此の絶大なる功臣の死を衷心より哀悼すべきに、彼等は反噬的態度を取りて、朕が死せる功臣を賞讃哀悼したる辭を非難攻撃す、何等の無禮ぞ、何等の侮辱ぞ。彼等が其事件の何たるかをも考へずして、狼りに朕が辭を咎め非難するは彼等の皇帝たる朕を侮辱輕視するものたると共に、我獨逸帝國絶大の功臣たる死せるモルトケに大なる侮辱を加ふるものなり。

### 七六 朕は深く古文學を愛す

朕は、拉典語に深甚の趣味を有す。世界に於ける拉典語に趣味を有すること第一なりと稱せらるゝものと殆んど同等或はより以上の熱心を以て拉典語を愛す。故に朕

は祝辭を陳ぶる場合は、必ず拉典語を以てすることに爲し居れり。朕が拉典語に多大の趣味を有するは、朕が萬知萬能の現實の超人たるが故と、朕がシャールマン大帝の子孫なるが故に遺傳的に大帝と同じく古文學を愛する結果に外ならず。

朕は嘗て、歴史家モムゼンに宛て、拉典語を以て衷心より敬意を表したる電報を送れり、即ち、

羅馬古代文明の發明家として比類なき大學者テオドル、モムゼンにまで。獨逸人の皇帝ウイヘルムは、サールブルヒ古城の中を穿鑿しつゝ敬意を表す。

と。朕が電報を受取りたる彼れモムゼンは、同じく拉典語を以て、左の如き返電を朕に送れり、即ち、

威光に於て、又た仁心に於て偉大なる、獨逸の皇帝にまで。ライツェルブルヒの古學者敬意を表す。

と。朕は又た、佛蘭西の商務大臣たりし社會黨のミュランを敬愛せり。朕は彼れが新聞に掲載したる論文を読むを樂みの一つとせり。而して彼れの論文を読む毎に、若し

朕は深く古文學を愛す

朕は深く古文學を愛す  
朕が臣下に斯の如き人物ありせば、朕は如何ばかり幸福なるべきかを思はざるを得ざりき。朕は彼れを思ひ愛するの餘り、屢々彼れに賞詞を與へたり。

此他、朕が愛したる人物、敬意を表したる人物は一二にして止らず、ワルデック、ルーナーも其の一人なり。ポナールも其の一人なり。シュール、シモンも其の一人なり。ピーヤボンド、モルガンも其の一人なり。セシル、ローズも其の一人なり。又たカルノーも其の一人なり。嘗て彼れカルノーが死せる時、朕は、カルノーは、其の大なる名に耻ぢざる、大なる名譽の中に斃れたり。恰も兵士が戰場に死せしが如くに。

てふ讃辭を與へざるを得ざりき。又た朕は、佛蘭西のポナール將軍に對しても屢々、戰術に關し拉典語を以て電報を與へ、獨逸人の教授ヰイルヒヨウへも科學に關し拉典語の電報を送れり。

### 七七 波蘭人に對する政策

新領土の人民を、本國の人民と同一の程度に同化せしむることは、決して甚だ容易なる業と謂ふ能はず。其の國民性の相違程度が大なればそれだけ困難なるは、新領土を得て之を同化せしめんとする列國の政策と其の結果とによりて一般的に證明するを得べし。而して、我獨逸帝國領波蘭も、常に朕に對して反感を抱き、朕が政策に多大の困難を感じしめつゝあり。度し難きは彼等波蘭人なり。

彼れビスマルクは、彼等に對して極度の強硬を以て政策を施せり。即ち、彼れは獨逸政府の政策に反對せる僧侶を悉く放逐せり。彼れは鉅金を投じて波蘭人の所有せる土地を買收し、之れを獨逸人に所有せしめたり。彼れは人民を煽動し教唆して獨逸政府に反抗せしむる政客は悉く之を捕縛し、獄裡に禁錮せり。斯くの如く強硬なる一切の手段を盡して、波蘭の國民主義なるものをして全く存在を失はしめんとせり。換言

波蘭人に對する政策

波蘭人に對する政策  
すれば、彼等は、波蘭を獨逸に結合同化せしむるには、彼等の宗教と國民主義を壓倒し撲滅せざるべからずてふ意見の下に強硬なる政策を行ひしなり。

然れども、ビスマルクの此の強硬政策は唯一最上の政策と稱すること能はざりき。何となれば、彼等波蘭人は是が爲めに却つて大いに反抗し、防禦策を講じてチームスキ銀行なるものを設立し、是れによりてビスマルクの爲めに買収されし土地を買ひ戻さんとするの計畫を爲すに至りたればなり。

朕は彼れの強硬政策は、却つて彼等の反抗的氣勢を増進せしむるのみに有効にして政策の目的は遂に失敗に終り、大混亂を惹起する唯一原因とならざるやを思ひ、彼れビスマルクを罷免すると同時にカブリヅィール伯を宰相に採用し、彼れに命ずるにビスマルクの執りたる強硬政策を廢止して、之れに代ゆるに専ら親切を趣旨とする懐柔政策を以てせしめたり。

彼等は喜べり。極度の壓迫を除かれて、自由にして而かも親切を主としたる政策を以てせられたるを歡喜せり。而して、彼等によりて選出されたる彼等の代表者中の有力なる一議員コスチールキーは、波蘭議員は悉く打ち揃ふて皇帝の海軍擴張案に賛成すべしと明言して朕に約せり。故に朕は、汝等が悉く打揃ふて朕の計畫たる海軍擴張案に賛成せば、波蘭の小學校に於て波蘭語と獨逸語とを併用することを許可すべしと約せり。

然れども、朕は疑はざるを得ざりき。彼等が朕の新政策に對する喜びは衷心よりの喜びなるや、或は何等か爲にする所ありて、衷心より歡喜せるが如く裝へるにてはあらざるなきやを疑問として考へざるを得ざりき。コスチールキーが明言せし處の如く帝國議會に於て、海軍擴張案の議せらるゝ時、波蘭議員は悉く打ち揃ふて擴張案に賛成し、約束を履行すべしと、果して信じ得べきやを疑問として考へざるを得ざりき。

最後の手段は殺戮

果然！、彼等の喜びは眞の喜びにてはあらざりき、彼等が朕の新政策に對する歡喜謳歌は衷心よりの歡喜にても謳歌にてもあらざりき。彼等は爲す所あらんとする計畫上より朕の政策を眞に喜べるものゝ如く裝ふへるものに外ならざりしなり。議會に於て、朕が年來の宿志たる海軍擴張案が附議せらるゝ當日に至り、コスチールキーを始め彼等波蘭議員は、悉く打ち揃ひて賛成せざるのみならず、悉く打ち揃ふて其席を去り、亦一人の影を議席に見ること能はざりき。爲めに必ず可決すべしと豫期したる海軍擴張案は、遂に否決せらるゝの不幸を見るに至れり。

### 七八 最後の手段は殺戮

朕が、ビスマルク黨の機關新聞より、猛烈なる排難攻撃を受けつゝも、ビスマルクの執りたる政策と全然相反せる新政策を彼等に施したるは、朕としては彼等に對する恩惠的最善の政策なりき。即ち、彼等を憫れむの情より出でたる政策なりき。彼等の權利を相當に認め、獨逸人に次ぐ優待を以てせる好意的政策なりき。

然るに彼等は、朕が衷情を思はず、朕に約したる海軍擴張案賛成を履行せざりしのみならず、却つて反逆的運動を恣にせり。朕は可成的温情を以て臨まんと欲すと雖ども、彼等の態度斯くの如くなる以上、怒らざらんと欲するも能はざるなり。嗚呼度し難きは波蘭人なるかな。彼等は遂に他の人民と同一に取扱はるべき人民にあらず。彼等は他の人民と同一の政治を受くるの資格なきものなり。朕は、彼等が無條件に、全然朕の臣下たるの實を示すまでは、彼等に對して、絶對服従を強ゆるの強硬政策を執らざるべからず。

故に朕は、新宰相ビュロー伯をして、從來の懷柔政策を拋棄せしめ、ビスマルクが行ひたるより以上の強硬政策を波蘭三百萬の人民の上に加へしめ、教會に於ても學校に於ても、將た又兵營に於ても、波蘭語を使用することを嚴禁せり。而して此禁を犯し、波蘭語を語る者は、小學校の兒童と雖ども嚴罰を加へしめたり。獨逸語を語ることを拒む者あれば、僧侶たると兵士たるとを問はず、嚴重に罰せしめたり。又た、波蘭主義を説く學生は悉く之れを國外に放逐し、シエンキーウイツツの如き、ミツキ

最後の手段は殺戮

最後の手段は殺戮  
「ウィッツの如き過劇なる文學者の著書は、悉く發賣を禁じ購讀を禁止せしめたり。

歐洲諸國の政治批評家は論へり、——吾人は、獨逸皇帝が何故に斯くの如き暴戾なる政策を、暗黒阿弗利加に於てのみ似合しきを思ふ外なき極悪政策を、歐洲而も歐洲の中央に於て遂行するかを怪しまざるを得ず。而も斯くの如き、有効ならざるのみならず却つて頗る危険なる政策の遂行を敢てするかは、獨逸皇帝以外、何人と雖ども殆んど解すること能はざるべし——と。

然れども、斯の如き、極端なる強硬政策を執るは、朕親から好めるにあらず、彼等波蘭人自から招ける結果なり。彼等が、朕の恩惠的善政策を徳として服従せず、朕に對する約束を無視し、却つて益々反逆的態度を取り、敵愾心を益々旺んらしめたる結果、遂に朕をして斯くの如き極端なる強硬政策を遂行するの已むなきに至らしめたるなり。

見よ！、彼等波蘭人が如何に頑冥不靈にして、極端に強硬なる政策を以て臨むの外なきかを。一千九百一十一年十二月三十日、塊領波蘭ガリシヤの議會がハンブルグに開かれたる時、ワールトリスキー公の名を以て朕に對する宣言書は、朕をして益々彼等に對して強硬なる政策を以てするの外遂に道なきを決心せしめたり。其の宣言書中に於て曰く、——我等波蘭人は一民族なりき。否な過去に於て一民族たりしのみならず、今尚ほ一民族なり。假令政治的に、また地理的に分割せられたりと雖ども、猶ほ依然として一國民なり。我等波蘭人は、思想の上に於て、統一ある國民としての存在を失はざるなり。故に我等波蘭民族は、獨逸の壓制暴虐に對しては、最も眞面目に最も嚴格に反對せざるを得ず。否な管に反對するのみならず、大いに痛憤せざるを得ざるなり。否な管に反對し痛憤するのみならず、苟くも「力即ち權利なり」といへる暴説に其の良心を麻痺せられざるものは、皆な之れに對して痛憤慨怒するなり。歴史は他日此の獨逸の壓制暴虐を裁判すべし。上帝は歴史によりて是れを裁判すべし。而して其の同胞の迫害せらるゝを見て痛憤禁ずる能はざる我等は、民族的存在の自覺心と

最後の手段は殺戮

最後の手段は殺戮  
 民族的権利及び義務の強烈なる感念とを以て、此の壓制迫害の暴擧に答へざるべからず。我等の答は即ち斯くの如し、——我等波蘭民族の上に墓石を横へ得たりと信ずる彼等壓制者の暴戾に強烈に對抗し、我等は波蘭國民に新生命を與へざるべからず。而も此の目的に向つては、我等は我等の道徳、智力、財力等總てのものを最も有効に用ゐるが爲め、我等の努力と忍耐力とを倍進するの大決心を有す——と。  
 之れ取りも直さず、我獨逸領内の波蘭人を煽動する宣言なり。故に朕は、直ちに朕が機關新聞に命じてガリシヤ議會の無責任なる暴擧を猛烈に攻撃せしめ、最も慎重なるべき議會が、他國の内政に關して干渉がましき宣言を爲したる輕擧と不條理と無禮とを問責せしめ、而して、ガリシヤ議會に於てワールトリスキー公が爲したる亂暴なる宣言は、第一は獨逸領波蘭人の爲めに、第二は奧太利の爲めに、遂に悲しむべき重大なる結果を來すべしと聲言せしめ、警告を與へたり。  
 若し、我獨逸帝國領三百萬の波蘭人にして、ワールトリスキーが宣言せしが如く變くまでも朕に反抗し、叛逆の態度を捨てざるに於ては、朕は、朕の軍隊に命じて、

彼等三百萬の波蘭人を、一人も残さず悉く之れを殺戮せしむべし。斯くの如き慘虐なる方法を執らんこと固より朕の希望する所にあらずと雖も、朕が最善の好意を盡すに拘らず、彼等の態度が斯くの如くにして、他の一切の方法手段にては絶對服従を爲さしむること能はざる以上は、此の方法が、頑冥不靈なる彼等の頭上に打ち卸すに最も適當せる裁斷の鐵槌たることを是認せざるを得ざるなり。

### 七九 獨逸人共通の敵

神の特選國民たる汝等獨逸人よ！

汝等は、我が獨逸文化を極力保護し、之れを侵襲破壊せんとする敵に對し、極力防禦するの任を以て起たざるべからざることを忘るゝ勿れ。……而も今は、汝等がホークとナイフを持てる間も、汗と脂とに塗れつゝ勞働する間も、又た一日の疲勞を醫すべく心地よくベッドに身を横へたる時も、美はしき夢路を辿る時も、汝等の生命と財産との安全に迫害を受くることある場合も、其他汝等が神より與へられたる生命の

獨逸人共通の敵

存在する限り、瞬間と雖ども決して忘るゝことあるべからず。

獨逸人共通の敵

神の特選國民たる汝等獨逸人よ！

見よ！、視よ！。頑冥にして不靈、傲慢にして不敵なる彼等波蘭人は、愈々我等に向つて反抗し來るにあらざるや。益々我等に向つて敵對行爲をなし來るにあらざるや。

神より特選せられて絶大の光榮を有する汝等獨逸の人民は、頑冥にして不靈、傲慢にして不敵なる彼等波蘭人の侵襲を防禦し、我が光輝あり名譽ある獨逸の文化と歴史とを保護する爲め、十分に自から覺悟するところなかるべからず。……過去に於けるが如く、今日に於ても、亦た明日に於ても、汝等獨逸人は、其の共通の敵と戦はざるべからざるの必要あり。

神の特選國民たる汝等獨逸人よ！

彼等波蘭人が、如何に頑冥不靈なるか、如何に傲慢不敵なるかは、埃太利の議會に

於て、波蘭人の血を擲める一代議士が爲したる演説に見るも否むべからざる事實なり。彼れの演説の大要は即ち斯くの如し。——今や獨逸皇帝ウイヘルム二世は、波蘭人征伐の總督として名乗り出でたり。今日まで波蘭人種の敵を煽動する事を以て業とせる策士等の口のみより出でたる煽動的暴言が、今や皇帝の口より出づるに至れり。此の煽動的暴言が、若し通常の人の言なりせば、吾人は、唯だ苦笑して止むべし。然れど、而も此の言が、五千萬餘の人民を有する帝國の皇帝——波蘭人が、グラヅロツト及びセダンに於ける勇戦に加はりて、興したる其の帝國の皇帝が、此の暴言を發して愧づるを知らざるに至りては、吾人は、遂に言ふべき所を知らざるなり。吾人は、獨逸皇帝ウイヘルム二世が、政治的常識を失ひ、人道の感覺を失ひたる人なるべしと極言するも、之れを誤れりと思ふこと能はざるなり——と。人民の代表者として一國の政治に參與する權利を與へられたる而も最も慎重なるべき代議士にして、斯くの如き暴慢無責任なる演説を敢てして愧づる所無し、斯の如き政治的常識を失ひたる演説を爲して、斯くの如き人道の感覺を失ひたる演説を爲して、然も聊かも愧づる所な

獨逸人共通の敵

獨逸人共通の敵  
さなり。噫々頑冥にして不靈なる汝等波蘭人よ。汝等は憎惡嫌忌すべきものたると共に遂に憫れまざるを得ざる人民なり。吠へよ波蘭人よ、汝の聲の續かん限り恣に吠へよ。吠へよ波蘭人よ、汝の聲の響が喪失せらるゝまで吠へ。汝等の吠へつゝある聲が、叫びつゝある聲が、何等の音響をも傳ふること能はざる時は、即ち汝等三百萬の波蘭人が悉く屠り盡さるゝ時なり。一人も残らず殺戮せらるゝ時なり。噫々頑冥不靈濟度し難き憫れむべき波蘭人よ。汝等は吠へ、叫び、反抗する前に、先づ汝等自らの首と胸とが分離することなかるべく注意せよ。

神の特選國民たる汝等獨逸人よ！

朕は、汝等が勇敢無比なるを十分に知れり。汝等が、我等をして波蘭人に向つて進ましめよと逸りつゝあるを十分に知れり。汝等が、我等の皇帝は、其の權威と勢力とを以て、我等を保護し給ふ、我等をして進ましめよ、而して勝利を收めしめよと勇躍しつゝあるを十分に知れり。

然れども、汝等逸ること勿れ。餘りに敵愾心を興奮せしめたる結果、輕率盲動すること勿れ。汝等が波蘭人に向つて進み、天與の鐵拳を彼等の頭上に打ち下し、彼等を粉碎するは、時期未だ早し。神は汝等獨逸人民に、忍べる限りは忍び、可成的平和の手段方法を盡し、目的を達成すべく教へたり。故に、汝等は、忍べる限り忍ばざるべからず、朕も亦た汝等と共に忍び得る最極度までは忍ぶべし、是れ我等が神に對する責任なり、義務なり、當然爲さるべからざることなり。

彼等に向つて勇躍猛進すべき時期到来せば、朕は汝等に起つべく命ずべし。朕が命下らば、汝等は最も勇敢に進み、最も猛烈に戦ひ、朕より與へられたる權利の範圍に於て、一切の手段を盡して確實に勝利を獲得せんことに努力すべし。

神の特選國民たる汝等獨逸人よ！

汝等が起つべき時は刻々に近づきつゝあり。汝等が傲慢なる波蘭人に向つて進み、天與の利劍を以て彼等の咽喉を貫ぬくべき痛快なる日は間斷なき時の進行と共に近づ

獨逸人共通の敵



最も深く馬を愛好す  
き迫りつゝあり。彼等三百萬の波蘭人を、悉く滅首して劔戟に申刺し、凱歌を奏する最後の日は、近き將來に於て實現さるべく迫りつゝあり。而も彼等波蘭人自から此慘劇を實現すべく努め且つ早めつゝあり。

八〇 最も深く馬を愛好す

朕は最も深く軍隊を愛し、最も深く妻子を愛し、又た最も深く馬を愛好す。兵士を見る時、朕は言ふべからざる愉快を感じるが如く、妻子と語ふ時、朕は文章も言語も形容すること能はざる衷心より愉快を感じるが如く、伯林に於て、又たポツダムに於て、朕廻りをなす時、朕は實に言ふべからざる愉快を感じず。而も此の愉快の爲めには時として、軍事も、妻子も、政治も、其他總ての事を忘却することあり。否な、萬事を忘れ擲却せざるを得ざる程に、大なる愉快を感じず。

朕は、厩を廻りつゝ、彼等を見るとき、非常なる愉快を感じつゝ、常に思へり。即ち

朕の如く馬に深甚の趣味を有する者は、全世界に求むるも到底比肩すべき者を發見すること能はざるべし——と。朕が厩の如く、最も完備して而も其の建築物の完全なるものを有する者は、世界列國の皇帝のみならず、如何なる階級に求むるも一人たりとも見出すこと能はざるべし——と。而して其の飼養法の新式なる、又た圖書館を設置して馬に關するすべての知識を網羅して遺す所なきものは、世界の何の國に求むるも逸に其の類を發見すること能はざるべし——と。而して又た、朕の如く俊逸なるものを多數に有するものは、世界の何の國に求むるも、是れに及ぶ者は一人も見ること能はざるべしと。

朕が愛好心をして満足せしむる馬は、其の資格として、第一に、駆走の速力の最も優越せるものならざるべからず。第二に、忍耐力驚く程に強からざるべからず。第三に、容姿最も高尚優美ならざるべからず。第四に、其の行爲は常に十分に安全ならざるべからず。第五に、命令に従ふこと最も敏速ならざるべからず。第六に、群衆の最も深く馬を愛好す

最も深く馬を愛好す

之れ宿志を達成せんが爲なり  
聲に、又た銃砲の音に毫も驚駭せず、泰然自若として如何なる場合にも常状を失はざるものならざるべからず。第七に、以上の資格をすべて完全に具備するものならざるべからず。

此の資格の全部を具備せる俊逸あらば、内國産のみならず、世界の何の國の産たるを問はず、例令千萬の巨金を投ずるも猶ほ惜むべきことなりとは思はざるなり。

### 八一 之れ宿志を達成せんが爲なり

朕が馬を愛好するは、婦女等が小き畜畜を愛好するが如く玩弄的意味を以て愛好するにあらず。朕は是れに跨りて朕が目的に對する手段の遂行上に使用せんが爲めに愛好す。

即ち、朕は是等の俊逸を驅りて、朕が宿志にして而して神の使命たる全歐征服、世界統一の大業を完成せざるべからざるが爲めに愛好す。

### 八二 其訓練と教育と方法

朕が俊逸なる馬を愛し好む最後の目的斯くの如し、朕は何時如何なる場合に、其の馬に跨りて長鞭を加へざるべからざるやも知れざるが故に、朕は其の訓練教育の方法に就ても、有らゆる仕掛、有らゆる設備、有らゆる科學的方法を以て爲しつゝあり。如何なる場合にも、如何なる場合に於ても、恐れず、憶せず、驚駭せざる習慣を養成し置かざるべからざることは、朕が馬を愛好する最後の目的上必要なりとす。

朕は時として愛馬をして、數萬の兵士喚叫する前に立たしむることあり。又た、般般轟々天柱摧け地軸折るかと思はるゝばかりに打出す大砲の、濺々たる烟の中を歩ましむることあり。或は又、數百千の大鼓を一時に打ち鳴らす騒然たる中を進ましむることあり。之れ即ち其の訓練教育にして、其等の喧騒する場所及び恐駭すべき光景に、恐れず、憶せず、驚駭かず、泰然自若として常に常状を失はざる習慣を得せしめ

其訓練と教育と方法

何事も世界第一主義  
んが爲めなり。

### 八三 何事も世界第一主義

朕は世界第一主義なり。何事に拘らず朕が爲すところのものは世界に冠絶せんことを期す。獨り軍事に於てのみならず、政治に於ても、外交に於ても、實業に於ても、工業に於ても、文學に於ても、美術に於ても、其他宗教も科學も音樂もすべて世界の第一位ならんことを期す。馬に於けるも、其教育訓練及び其の結果を世界の第一位に置かんと欲し、有らゆる方法を盡しつゝあり。

朕は、畜に、馬を愛好するのみにあらず。只だ單に婦女子等が小さな家畜を愛好するが如く、自己の愛好心を満足せしめんが爲めに、漫然と好み、漫然と愛するにあらず。

朕は、馬に關しては、堂々たる大馬學者として世界に濶歩するに十分なる研究せる

馬學の精通者なり。且つ朕は馬學に關しては卓絶なる眼識を有す。

朕は又た馬學に關して講演をなすことを好み、從來屢々是れを試みたる經驗あり。而して聽講者をして、朕が馬學に造詣深大なるに吃驚せしめたり。而も彼等聽講者は馬學に關する講演のみを以てするも、朕が現實の超人——萬知萬能の超人たることを信ずるに十分なりと思惟せしが如し。

朕は、馬に關しては、學理的に卓絶なる眼識を有するのみならず、其を訓練し教育する上に於ても、非凡の技倆を有せり、何人も及ぶべからざる卓絶なる技倆を有せり。故に朕は、親から良馬を選択することあり。且つ訓練教育に就ても、當務者が未だ嘗て夢想だも爲し得ざりし教育訓練法を教へ、又た屢々注意を與ふることあり。

軍事を好みて馬を愛好せざるものあり。是れ完全なる眞の軍事愛好家と謂ふべからず。何となれば、斯くの如きは、恰かも、敵を斬らんことを好みて而も己れの劍を磨くことに不熱心なるに等しきものなればなり。之れ國土を膨脹せしむることのみを欲

朕をして——たらしめば  
して而も軍備を強大にすることを等閑に附すると相等しきものなればなり。

### 八四 朕をして——たらしめば

朕をして哲學者たらしめば、世界唯一の大哲學者たるを得ん。朕をして詩人たらしめば、世界唯一の大詩人たるを得ん。朕をして宗教家たらしめば、基督より遙かに完全に偉大なる宗教家たるを得ん。朕をして音楽家たらしめば、世界に於て比肩する者なき音楽家の第一人者となるを得ん。朕をして科學者たらしめば、空前絶後の大科學者たるを得ん。朕をして探險家たらしめば、地球の表面にXを附すべき所なからしむる大探險家たるを得ん。朕をして俳優たらしめば、世界第一の大俳優たるを得ん。朕をして作劇家たらしめば、セキスピア又はイブセンと雖も、適かに遠く及ばざる、否、過去に於てのみならず、現代に於ても、將來に於ても、匹嚀者を發見すること能はざる、大作劇家たるを得ん。朕をして發明家たらしめば、一時に一世の時間を要して進歩したるものを一時に其れと同等の進歩を爲さしむる大發明家となるを得ん。

朕は、北海波上の星降るが如き一夜、天下渺茫として極りなき所、艦橋に立て航しつゝ、深く自から覺れり。朕の上には、全知全能の神の外、何者も在らざることを——。

### 八五 艦橋に立て航しつゝ

### 八六 奥匈征服と朕が決心

オ—獨逸人よ！。神によりて特に選ばれたる獨逸の人民よ！。  
汝等は既に、朕が、神の特別なる使命に依りて獨逸皇帝となれることも、而して朕が特に汝等を選びて臣民となせる理由も、又、朕が、神の特別使命たる全歐統一——世界統一——人類統一の大事業を達成すべく、如何なる方法を講じつゝあるか、如何なる手段を執りつゝあるか、而も其の、統一事業遂行の順序が、如何なる方面より如何なる方向に進歩しつゝあるか等の重要なことに就ては、十分に或は略、知れる所なるべきは、朕が確信して疑はざるところなり。

艦橋に立て航しつゝ、奥匈征服と朕が決心

オー獨逸人よ！。神によりて特に選ばれたる獨逸の人民よ！。  
汝等は、我獨逸帝國は、南方に於て國境を接したる老朽の埃國を、我帝國の版圖に編入せざるべからずして、然も其の編入たるや、當然の事にして何等侵略的のものにあらざることを知るなるべし。又、朕が汝等に命じて埃國を蹂躪せしめ、埃國を獨逸の色に塗り變ゆることは、歴史的事實より見るも、何等怪しむべきものにあらざることを知るなるべし。

オー獨逸人よ！、神によりて特に選ばれたる獨逸の人民よ！。  
汝等が、歐羅巴史を讀まば、埃國國史を繙き、我獨逸史を繙き、獨逸關係史を繙かば、我が獨逸人と埃國國とが、如何なる關係にありしか、又たありつゝあるかを知るに甚だ容易なるべしと信ず。而して又朕が、彼れを征服して獨逸帝國の領土となさんとす計畫が、又最も當然なることにして、決して朕が野心を満足せしめんとする

ものにあらざるを了解するに、甚だ速かなるべきを信ず。

オー獨逸人よ！。神によりて特に選ばれたる獨逸の人民よ！。  
汝等が歴史によりて既に知れるが如く、我獨逸人と埃國國とは非常に密接の關係を有せり。即ち、古き時代に於ては、埃國國は全く我が獨逸人種の支配せる處にてありき。而も、埃國國に於ける我獨逸人は、其の數に於ては甚だ多かりきと言ふこと能はざるも、寧ろ甚だ少數なりきと言ふを以て適當なりしと雖も、其の勢力は大なりしなり。即ち、最も好都合なる選舉法の結果として、能く多數のスラヴ人種を支配するを得たりしなり。而も其の支配權は、形式的のものにあらずして、實質的、實力的のものなりき。

オー獨逸人よ！、神によりて特に選ばれたる獨逸の人民よ！。  
我が獨逸人と埃國國との歴史的關係斯の如し。今日に於て、朕が彼れを征服して朕

埃甸征服と朕が決心  
が統治下に置かんとするは、何人も異議を披むべからざる必然事、當然事なり。朕は埃甸國を併呑して統治下に置くも、神に對して何等疚しき所なきのみならず、神が下に下したる世界統一の使命の一端を果す所以にして、寧ろ、神に對して責任の一部分を果せるものとしての大なる愉快を感じるものなり。

オ一獨逸人よ！。神によりて特に選ばれたる獨逸の人民よ！。

汝等は、埃甸國を、老衰朽廢、所詮何事をも爲し得ざる國として、多寡を括るとは大いに考へざるべからず、大いに熟考せざるべからず、大いに深慮せざるべからず。汝等は、彼れの武力が、我が獨逸帝國に比して、適かに劣り大いに弱き理由を標準として、併呑征服之れ易々たる而已と、輕視侮蔑の念を以て樂觀し油斷することは、大いに考へざるべからず、大いに熟慮せざるべからず、大いに深く省みざるべからず。

オ一獨逸人よ！、神によりて特に選ばれたる獨逸の人民よ！。

汝等は、老朽所詮何事をも爲し得ざる如く見ゆる埃甸國內に、チエツク人あること

を忘るべからず。彼等の總數は現在に於ては、一千萬人以上に上らずと雖ども、彼等は其數の多からざるに比して其の民族力は甚だ強大なり。其精神氣魄は、波蘭人の如く剛健なり。波蘭人が徹頭徹尾我獨逸帝國に反抗せんとするが如く、常に絶へず我獨逸帝國を憎惡しつゝあり。彼等は常に、如何なる誘惑を以てするも、斷じて獨逸皇帝の臣民とならざるべしと揚言しつゝあり。然かも、彼等はボヘミヤ地方に住するが故に、我が獨逸帝國が、埃甸國を併呑するには、是非とも此の人民種を領内に入れざるべからず。此の人民種を領内の人民とすることを避んとせば、結局するところボヘミヤ地方を獨立國として其の存在を認むるの外なし。朕が汝等に大いに考へよ、大いに深慮せよと言ふは、即ち是れあるがためがためなり。

オ一獨逸人よ！、神によりて特に選ばれたる人民よ！。

朕が埃甸國に對する計畫に就て、評論する者は言へり。チエツク人が獨逸に對する敵愾心と、其の人民種の繁殖力とは、殆んど獨逸が豫想しつゝある以上に盛んなるも

埃甸征服と朕が決心

獨逸征服と朕が決心  
のなるが故に、若し獨逸が埃國を併呑して、此の人類を領内の人民と爲さんか、獨逸は遂に彼の獨領波蘭人に對するが如く、非常なる壓制慘酷なる政策を以てせざるを得ざるべし。而して此のチエツク人は、波蘭人と共に、將來に於ける獨逸大帝國の不斷の禍たるべし——と。彼等の此の觀察は、全く的中せりと謂ふこと能はざるも其一部は確かに的中せりと謂はざるべからず。何となれば、チエツク人は、彼等が謂へる如く、其の繁殖力非常に大にして且つ我が獨逸帝國に對し、猛烈なる敵愾心を有すればなり。

オー獨逸人よ！。神によりて特に選ばれたる獨逸の人民よ！。

されど汝等は、チエツク人を、我が埃國併呑計畫を根底より破壊し、全然失敗に終らしむるものと斷ずるは餘りに早計たるを免かれざるを知らざるべからず。彼等の繁殖力と敵愾心とは、永遠に我獨逸帝國を悩まし、獨逸人の壓力を以てするも、到底其禍根を絶滅すること能はざるものと悲觀するは、神より特に選ばれたる汝等として

は、餘りに自信なきものたることを思はざるべからず。

彼等チエツク人は、彼の波蘭人と等しく、朕が施す如何なる同情的善政策に對しても、衷心より歓迎すること無かるべし、絶對の悦服を爲すことなかるべし。便宜上歓迎せるが如く、悦服せるが如く柔順なるべしと雖も、早晚猛然として反抗的態度に出づべきは、波蘭人が一時朕の政策を歓迎し、海軍擴張問題に至りて、假面を脱ぎ捨て、全く反對の行動を爲したるその如く、今より豫想せらるべきなり。

朕は、彼等に對しても、波蘭人に於けるがごとく、神の意志によりて、出來得る限り同情を以てすべし、好意を以てすべし。同情に當める好意を以て平和的最善最良の政策の一切を盡すべし。忍耐し得る極度までは忍耐することを忘れざるべし。汝等も亦朕と共に、忍ぶべきだけを忍びて、一切の同情的好意的態度を以て接せざるべからず。

されど、汝等は、朕が好意的善政策も遂に彼等を眞に悦服せしむること能はず、而して忍耐の極度に達したる場合に於て、朕が如何なる政策を以て彼等に對するかに就

埃國征服と朕が決心

いて懸念する要は些しもあらざるなり。朕は、彼等が朕の同情を以て満されたる善政策に反抗し、飽く迄も其反抗を繼續せんとする場合に於ては、決して容赦する處なきなり、決してより以上に好意を以て臨まんとすることを爲さざるべし。即ち、波蘭人に對する最後の手段が殺滅にあるごとく、彼等チエツク人に對しても殺戮を以てし、天與の利劍を以て悉く彼等の咽喉を抉り貫き、繁殖と敵愾心とを根絶し、帝國將來永遠の禍根を一掃すべし。

### 八七 埃匈國併呑機會

オー獨逸人よ！、神によりて特に選ばれたる獨逸の人民よ！。  
朕は、汝等が、朕の埃匈國併呑の大計畫に賛成し、其の活躍期の日も早からんことを衷心より寧ろ熱望しつゝ、焦燥の念頻りなるものあるを知れり。而して汝等が能く朕が意の在る處を遂行せんとする忠順にして勇敢なる精神を嘉賞し、其の獨逸魂が無窮に永續せんことを切望す。

オー獨逸人よ！、神によりて特に選ばれたる獨逸の人民よ！。  
汝等は、朕が老朽枯衰せる隣邦埃匈國に向つて、併呑を具體的に行ふことが何時なるべきかてふことにつきて、朕より具體的に問かんと欲するところなるべし。朕も亦汝等の勇敢忠誠に對しても、汝等の希望を満足せしめんと欲すと雖も、之れを今直ちに發表するは、取りも直さず埃匈國に反抗の準備を促すに等しきものなれば、全部を發表することは能はず。されど、其の機會は左程に遠からずして來るべし。埃匈國に取つては、最も悲しむべき日と共に、朕が大計畫の序幕は開かるべし。

オー獨逸人よ！、神によりて特に選ばれたる獨逸の人民よ！。  
朕が埃匈國併呑大計畫の活動序幕は、彼れの皇帝フランツ、ヨセフの死と共に開かるべし。即ち、朕が大計畫遂行の唯一機會は、フランツ、ヨセフの死と共に起り來る皇位繼承問題にあるなり。



然かも、朕が、皇位繼承問題に對して、如何なる問題を持ち出すべきかは、朕が此處に微細に亘りて説明するまでもなく、汝等は能く想像し得るところなるべし、朕が從來執り來りたる對埃政策に據りて――。

八八 淺薄無識の愚論

オー獨逸人よ！、神によりて特に選ばれたる獨逸の人民よ！。  
汝等は、我が獨逸帝國が徹頭徹尾軍國主義を以て一貫せんとするを恐憂嫉視せるもの多きを知るなるべし、朕が世界統一の大計畫を根本的に破壊せんと頻りに努めつゝある者多きも既に知る處なるべし。機會だにあらば、我が軍國主義を打破し、我をして再び起つ能はざるの悲境に沈淪せしめんと狙ひつゝある者決して尠なからざるを知るなるべし。朕が隣邦埃國を併呑して、朕が統治下に置かんとする計畫に對しても、非難攻撃しつゝある者些なからず、朕をして斷念せしめんと、種々の方法を講じ手段を弄しつゝある者尠なからず。而して朕が對埃計畫を批評する或者は論へ

り。即ち――獨逸皇帝が埃太利を併呑せんと計策しつゝあることは、歐洲人中之れを知らざる者無き公然の秘密なるが、獨逸皇帝が埃太利に對し、其の野心を遂行する機會は、フランス、ヨセフ老皇帝の崩御の時にあるべしとは、獨逸皇帝の埃太利に對する大野心を知れる者の等しく認むる處なるべし。而かも獨逸皇帝が、如何に此機會を利用するかに就ては、埃國の皇室と國狀とに據りて、略豫想することを得べし。即ち、フランス、ヨセフ老帝崩御後、其皇位繼承者は、オットー大公か、若しくは其弟フランツ、フェルデナンド親王かなるべしと雖も、埃國に於ける獨逸黨は、其皇位繼承者が何人たるにせよ、皇位繼承を以て乗すべき唯一絶好の大機會として大飛躍を試むべく、大活動を爲すべきは明らかなる事實にして、其れと共に満を引いて待ち構へ居りたる獨逸皇帝は、直ちに全國に動員を行ひ、其の精銳なる二百有餘萬の貔貅は、皇帝の令下に國境を踰へて埃國に侵入するの準備を爲すべし。然も若し、獨逸の爲めに不幸にして、維納に於ける皇位繼承問題が、平穩無事に終局したりとせば如何、果して獨逸皇帝は遂に埃太利併呑の野心を抛棄すべきか……、否々、彼れは聽て第二

淺薄無識の愚論

淺薄無識の愚論

の機會を作つて、遂に其の初一念を貫徹せざれば已まざるべく、然かも其の第二の機會は、甚だ容易に作ることを得べし。即ち、獨逸皇帝は、奥國軍隊中に於ける獨逸人を教唆煽動して秩序を破壊紊亂せしめ、大擾亂大騒動を惹起せしむべし。奥國軍隊中に於ける多數の獨逸人將校は、獨逸皇帝の煽動に乘り、教唆に動かされて、忽ち大擾亂大騒動を起すべく、又た、奥國に於ける獨逸人は、大擾亂大騒動を口實に、獨逸に於ける同胞に向つて救援を絶叫すべく、又た奥國に於ける獨逸人の諸新聞は、一方に於て密かに大擾亂を助長せしむると同時に、また他の一面に於ては、奥國在住の獨逸人の騒動絶叫を益々大ならしむるに力むべし。

斯くの如く機の熟するを待つて、獨逸皇帝は、獨逸人保護を名として、其の大軍隊を進めてポエミヤに侵入せしむべし。而して、奥國軍隊中の獨逸人は、悉く其の隊を脱して侵入せる獨逸本軍に加はるべし。奥國の軍隊は戦はずして退却すべし。斯くて獨逸皇帝は、戦鬪なき戦争を以て堂々奥國都維納に入城すべし。

斯くの如く説き来れば、獨逸皇帝は、何等の障碍なく一兵をも損せずして濡手に粟

を攫取するが如く、甚だ容易に呆氣なく奥國を征服し併呑し得るが如しと雖も、實際は決して斯くの如くなるを得ざるべし。何となれば、奥國が獨逸に併呑せらるゝを以て多少の利害關係を有する第三國は、獨逸が爲すが儘の勝手極まる行動を拱手傍觀すること無かるべければなり。即ち、直接關係を有する露西亞、伊太利、佛蘭西三國は、獨逸が兵を進めて奥國を占領するまでは、何等軍事的行動を爲さざるべきも愈々獨逸が奥國を占領し終るや、單獨又は相提携して獨逸に強硬なる要求を爲すべければなり。

佛蘭西は中立の報酬としてアルサス、ローレン及びルクセンブルグとの還附を要求すべし。伊太利も亦、伊太利人の多數を包有するワリスト、トレントを始めて、ダルマシヤ、ステイリヤ、アルバニヤを要求すべし。露西亞も亦野心満々たるが故に、獨逸皇帝が思惟する如くガリシヤ、バコウイナを得たるのみを以て満足するものにあらざるのみならず、波蘭人の多數を有する禍根の地は、寧ろ望まざるべく、他に大なる要求を爲すや明かなり。

淺薄無識の愚論

淺薄無識の愚論

斯くの如くして、獨逸が埃國征服に成功する時は、即ち露、佛、伊三國が提携するの時なり、三國二億の人民の勢力が結合して、獨逸皇帝の行動に大反對を開始するの時なり。獨逸皇帝にして、若し三國の要求を容れざる時は、三國の聯合軍と戦はざるべからざる運命に陥るの時なり。

斯くの如く、獨逸皇帝の埃國に對する野心と其の決行の結果とを解剖し來れば、獨逸の埃國併呑は、頗る困難と言はんよりは、寧ろ、之れを絶對に不可能事と斷ずべきなり——と。朕が埃國併呑企劃に對して、斯くの如き悲觀的考へを有するものは外國人のみにあらざるが如し、朕が軍國主義を國是として陸海の軍備を殆んど無限無窮に擴張せんとするを恐憂し、猜疑し、嫉視する外國の政治家、政治批評家、外交家、新聞記者等のみにあらざるが如し、神によりて特に選ばれたる絶大の光榮を有し唯一の名譽を有する獨逸人民中にも、其數甚だ尠なからざるが如し。而かも、斯くの如き悲觀的議論を試み、暗に朕をして埃國併呑計畫を抛棄せしめんとする獨逸人は、無識の徒にあらざして、堂々たる識者として、國民一般より相當に尊敬せられ、推稱

されつゝある者に多きは、甚だ意外とせざるを得ず。

彼等が斯くの如き議論を耻辱と思はずして社會に發表するは、彼等を識者としての價値と聲價を高からしむる所以にあらずして、實は、自己の皇帝を侮辱せる不忠不臣の徒輩たることを自ら廣告するものなり。自己が神によりて特に選ばれたる獨逸人の一人たることを自覺せず、獨逸帝國の一國民として、帝國の使命を果すべき責任を神に對して有することを無視し、帝國の使命遂行を阻止し、朕が使命遂行上の計畫を妨害するのみならず、寧ろ之れを破壊せんとするが如き議論を公表して顧みざるは、無識者に劣れるものと謂ふべく、識者の範圍に論ずべき代物にあらざるなり。

八九 獅子の志を知らざる鼠

オー獨逸人よ！、神によりて特に選ばれたる獨逸の人民よ！。

汝等は、彼等が論評するが如く、朕が埃國併呑の大計畫は、殆んど失敗の幕を以て終局すべしと思惟するや。汝等は、彼等が豫想するが如く、朕が埃國を征服すると

獅子の志を知らざる鼠

獅子の志を知らざる鼠  
共に、露、佛、伊三國が、相提携して、我努力を殆んど無意義に無報酬に終らしむる  
大なる要求を爲すべしと思惟するや。

若し汝等にして、彼等と等しく、斯くの如き悲觀的豫想を爲すものとなせば、汝等は  
朕が神の特別なる使命によりてホーヘンツォルレルン家に生れ來り、汝等の皇帝とな  
れることを知らざるものなり。汝等獨逸人が神より特に選ばれたる絶大の光榮と偉大  
なる名譽とを有する、世界唯一の人民たることを自覺せざるものなり。即ち朕が股肱  
たる獨逸國民たるの資格無きものなるを知らざるべからず。朕が命令を奉じて全歐統  
一、世界統一の大事業を完成する力なきものなり。

オー獨逸人よ！。神によりて特に選ばれたる獨逸の人民よ！。

汝等は神を信ぜよ。朕をして特に汝等の皇帝たらしめし神を信ぜよ。汝等を特に選  
びたる汝等の背後に立てる神を信ぜよ。汝等が神を信ぜば、朕を信ぜざるを得ざるべ  
く、朕を信ぜば朕が爲し爲さんとすることを信ぜざるを得べし。

オー獨逸人よ！。神によりて特に選ばれたる獨逸の人民よ！。  
汝等は記憶せざるべからず。神の意志によりて朕が企圖せる全歐統一、世界統一の  
大業は、政治家、或は外交家、又は新聞記者などが揣摩臆測せるが如き淺薄幼稚なる  
ものにあらざることを——。又た、小なる鼠は大なる獅子の大なる志を知らざるもの  
あることを——。

九〇 すべて神算すべて神籌

オー獨逸人よ！、神によりて特に選ばれたる獨逸の人民よ！。

汝等は決して憂ふること勿れ。決して結果を悲觀すること勿れ。決して朕が計畫を  
危ぶむこと勿れ。

朕が全歐統一計畫、世界統一企劃は、ナポレオン一世一派の神意を蒙らざる英雄的  
野心家の夫の如きものにあらずして、すべて神算神劃なり。如何なる場合と雖も其企

すべて神算すべて神籌

すべて神算すべて神籌  
劃と全然相反するが如き結果に至らざるを斷言するに躊躇せず。

例令、百歩千歩を譲りて、彼等評者の論ふが如き計畫の下に決行したりとせんも、彼等が結論に於て言へるが如き結果を見ることはなきなり。何となれば、朕は神の意志によりて行ふものなればなり。朕の背後には常に朕を保護する神のあるありて、不  
斷に庇護しつゝあればなり。

朕が埃匈國併呑計畫の如きも、彼等が揣摩憶測せるが如き淺薄幼稚なる計畫にあらず。凡庸拙劣なる企劃にあらず。彼等の人間の頭腦より想像するが如き、拙劣なる計畫の下に、朕が埃匈國に行動せば、或は彼等の言の如く、露佛伊等の諸國より要求を提出せらるゝやも知るべからず。而して遂に、殆んど無意味の努力に至るべきやも知るべからず。

されど、朕が對埃企劃は、何人と雖も、其の一端をだも窺ひ知るを得ざる計畫なり。企劃なり、即ち神算なり神籌なり。

オー獨逸人よ！、神によりて特に選ばれたる獨逸の人民よ！。

汝等は、朕が埃匈國併呑企劃に就いては、決して疑念を挟むる勿れ、決して憂慮すること勿れ、決して悲觀すること勿れ、決して第三國の如何を考慮すること勿れ、朕は必ず埃匈國を併呑すべし。而して此場合に於て、露西亞をして、佛蘭西をして、伊太利をして、要求を爲さしむるが如きことは斷じて爲さざるべし。彼等の要求の爲めに、埃匈國併呑が實際の利益なき即ち無意味の努力となり了るが如き愚を爲さざるべし。三國二億の人民が結合して朕が行動に反對し、如何なる手段に訴へ來るとも、朕は斷じて獨逸帝國をして彼等の前に屈服せしむるが如きことは爲さざるべし。汝等は神を信じ、朕を信頼して安心せよ。

オー獨逸人よ！。神によりて特に選ばれたる絶大の光榮と偉大なる名譽とを其の頭上に頂ける我が獨逸帝國の人民よ！。

すべて神算すべて神籌

斯の如きを欲せず

九一 斯の如きを欲せず

朕は、第十八世紀に於ける我獨逸史を讀み、フレデリキ大王の父フレデリキ、ウイ  
ルヘルム第一世を知り、彼れが性格より彼れの事業を研究せり、而して大いに感ずる  
所ありき。

彼れの性質は剛健と謂はんよりは、寧ろ粗暴にして武骨と云ふの適當なる程に硬的  
性質なりき、彼れの父フレデリキ第一世は性華奢を好み佛王ルイ十四世の浮華柔弱  
の風を學び、無用の虚飾を事とせしが、彼れは父フレデリキ一世の子と思ふこと能は  
ざる程に全然相反せる性質の人物なりき。

彼れは粗暴にして武骨を以て其性質を作られしが故に、些しく己れの意に不満なる  
ことあれば、激怒憤恚殆んど當るべからざるものありき。妻子家族と雖も決して假辱  
する所なかりき。彼れは自から世界に於ける唯一人物を以て自任したりき。

彼れは又非常なる節儉家なりき、實行を具備したる節儉家なりき。寧ろ節儉の極度  
を過ぎたりと思はるゝまでの極端なる節儉家なりき。彼れが父フレデリキ一世の死後  
繼いで王位に即くや、父が爲せし華美の裝飾は悉く之を撤せり、何物も残らざるまで  
に除き去れり。多くの侍臣をも罷めたり。而して親から粗服を纏い粗室に起臥せり。

彼れは甚だしく喫煙を好み、毎夜喫煙室に寵臣を召集し、臭煙濛々たる中に平然と  
して、欣然として、國事を談ずるを唯一の快樂とせり。彼れは斯くの如く、臭煙満ち  
充てる喫煙室に於て朝臣を集め、國事を談ずると、苛酷壓制なると、すべて物の大な  
るを好むと、兵事を好むとより以外には、殆んど趣味を有し興味を感ずる何物をも有  
せざりき。

彼れは世界無比の強大なる軍隊を作らんとせり。而して、無算の資を投じ、歐洲の

斯の如きを欲せず

斯の如きを欲せず  
諸國より驅幹長大なる兵士を募集し、之れを以て自己の理想的軍隊を組織せり。ポツダム親兵と稱し、歴史家の特筆大書するものは、即ち此の巨人軍隊なり。而して其の數八萬に達し、精銳無比と稱され恐れられたり。

朕は過去に於て多くの事を爲せり、現在に於ても多くのことを爲しつゝあり。又た將來に於ても多くのことを爲さんと思へり。朕が過去に於て多くのことを爲せしことも、現在に於て多くのことを爲しつゝあることも、將來尙ほ多くのことを爲さんとすることも、皆之れ朕が神に對する責任上、當然爲さるべからざる事にして、決して朕が野心より爲し又た爲さんとするものにあらず。

朕は斯く多くのことを欲しまた爲さんと思惟すれど、彼れの如く苛酷壓制を以て人民に臨まんことを欲せず。彼れの如く臭煙濛々として充滿する室内に於て國事を談ずるが如き、皇帝の尊嚴を自から低價せしむることを爲さんと思はず。彼れの如く人種

を異にせる諸國より、巨費を投じて驅幹長大の兵士を募集し、親兵を組織せんことを思はず。彼れの如く粗衣粗食を以て王者たる者の爲して其の尊嚴を損ずることなきものと思惟すること能はず。

### 九二 世界唯一の親兵

朕は、我が獨逸帝國のすべてのものをして世界に於ける第一位に置かんと欲し、すべての方面に努力せり、又た努力しつゝあり。軍事に於て然り、政治に於て然り、外交、文學、宗教、哲學、科學工業然り。

而して、親兵に於ても、朕が親兵は世界第一の親兵なり。其の訓練に於て——、其の教育に於て——、其の誠忠無二なるに於て——、其の勇敢なることに於て——。而も朕が親兵は、驅幹長大にして精銳無比なりしと歴史上に噴々の名聲を止めたる彼の十八世紀のポツダム親兵の如く、驅幹の長大なるにはあらずと雖ども、其誠忠に

世界唯一の親兵

無禮極る佛人の愚論

して勇敢精銳なることは、十八世紀のポツダム親兵を過かに凌駕せり。のみならず、朕が親兵は古のポツダム親兵の如く、人種の如何を問はず、巨人なれば直ちに巨資を投じて募集されたる混成にあらず、純なる獨逸人のみを以て組織し、且つ、其將校は朕と關係を最も密接にせるもののみを以てせり。故に彼等は、朕が爲めには、如何なる艱難も辛苦も辭せず。彼の黄色の大悪魔日本の兵が、皇帝と國家の爲めに生命を輕視すること塵芥の如き夫れよりも猶ほ、朕が爲めには生命を輕視し、死を見ること恰かも歸するが如し。朕が親兵が、如何なる點より見るも、世界無比の親兵たることは、朕一人の認むるところのみならず、世界各国の等しく認むるところなるべきを信ず。

九三 無禮極る佛人の愚論

佛蘭西の一批評家、即ち所謂識者の部類に入るべき一批評家は、朕に關して評論を試み、——獨帝ヴィルヘルム二世の政策は畢竟獨逸をして不安固の位地に置くことな

るべし、遂に獨逸を分離せしむることゝ爲るべし、遂に獨逸を貧窮ならしむることゝなるべし、遂に獨逸をして無神經の獨逸無氣力の獨逸と化せしむるに至るべし——と論へり。而して又、——若し彼れにして一朝其の勢力を失墜せんか、徹頭徹尾自家廣告的なる彼れの事業の失態を續々世上に曝露すべし。今日に於ける賞讃の聲も明日は憎惡嘲笑罵倒の聲と變ずべし。歴史は必ずや、忘らるべからざる祖父の孫なる忘らるべき君主を嚴刻に批判すべし、ビスマルクに對する彼れが忘恩の行動を觀過すること無かるべし。殘忍慘酷に波蘭人を處刑せしこと、及び全歐に對して屢々爲せし不信の行動を默過することなかるべし、歴史は彼れの假面を剝奪し其の實際の價値を嚴格に容赦なく發表すべし。高音の碎瓦の驚くべき無價値を明白に報告すべし——と言へり猶ほ、——斯くて伯林を世界の中心と爲さんと夢想し居りたる皇帝ヴィルヘルム二世は遂に全然失敗に終り。其の無智無識を赤裸々に世上に知らるべきなり——と論へり——是れ何に基因するぞと云へば、主として彼れの虛榮心に基く——と言へり。彼れの智慮、彼れの常識等に就きて研究するに概ね淺薄皮相にして論ずるに足らず、

無禮極る佛人の愚論



無禮極る佛人の愚論  
 唯だ平凡なる日常談話に於て、其の人間らしき知識の光を認むるのみ——と論へり。  
 —斯かる人は常に事物の表面に立つ、然れども、退ひて之を察すれば、其の頭腦や空にして虚なり、其の心胸やサハラの砂漠なり、名譽の花は決して斯くの如き處に美はしく咲くものにあらず——と論へり。而して彼れは其の最後に於いて論へり、即ち、——噫々憐れむべき人よ、我等は汝を憫れむ、而して又汝の人民を憐れむ、而も此の人民は嘗て獨逸語を語る國民のために同盟を作りし偉大なる國民なりしに、實に憐れむべきことなり、思ふに今後十年間に獨逸の人民と全世界の人類とはウイエルヘルム二世の如何なる人物なるかを知るの時期に到達すべし——と論へり。  
 朕に對して、斯くの如き評論を試むる者は、朕については全然無知識なるものなり即ち、朕が人民によりて推戴せられたる皇帝……人民によりて推戴せられたる者の子孫……武力を以て人民を征服し、自ら皇帝となりたる皇帝……にあらずして、世界人類永遠の平和と幸福とを保證せんが爲めに、神の特命によりてホーヘンツォルレルン家に生れ、獨逸人の皇帝となれるものなることを、全く知らざるものなり。朕

が計畫、朕が行動は、すべて神の意志に據れるものなることを知らざるものなり。斯くの如き徒輩の言は一笑に附し去るべき愚論なりと雖も、朕を知ること深からざるもの多き世界の人民は、斯の如き無責任なる愚論に迷はさるゝこと多く、而して朕を誤解するに至ること多きが故に、淺薄なる愚論と雖も、必ずしも一笑に附し置くこと能はず。否な寧ろ、無責任なる愚論は多くの場合に於て、其の愚論なるだけ其れだけ悪影響を及ぼすものなれば、朕は斯くの如き無責任なる愚論について反駁の勞を爲さるべからざると共に又朕を眞解せしむべく方法と手段の一切を盡さるべからず。

### 九四 佛蘭西の愚なる識者

朕が政策は神の意志に據りて行ふ政策なり、決して朕自らの私心より出でたる政策にあらず。神の力は絶對の力なり、神の權威は絶對の權威なり、神の行ふことはすべて絶對善なり、絶對美なり。朕は政策に於て、行動に於て、此の神の絶對の力に依りて行ひ、此の神の絶對權威によりて爲し、此の神の絶對善と絶對美とによりて行動す

佛蘭西の愚なる識者

佛蘭西の愚なる識者  
故に、朕が伯林を政治、外交、文學、哲學、宗教、實業、經濟、軍事、科學、其の他凡百ものに於て、世界の中心と爲さんとするは、朕が空想にあらず、夢想にあらず神の特別命令によりて爲さんとするものなるを以て、神は遂に朕をして此目的を貫徹せしむべきは、朕と共に神と朕と獨逸人の使命とを信する獨逸人が、堅く深く信じて疑はざるところなり。

朕が政策は、獨逸帝國の將來をして不安固に置くものにあらず、分離せしむるものにあらず、貧窮ならしむるものにあらず、無神經無氣力ならしむるものにあらず、光輝あり名譽ある我獨逸帝國をして、將來益々安固ならしめ、結合力を益々堅固ならしめ、益々富裕強大ならしめ、益々英氣潑洩たらしむるものなり。何となれば、朕が政策は之れ徹頭徹尾神の意志、神の命令に據りて行ふ最善最良の政策なればなり。

嗚々嗚々べき佛蘭西人よ。嗚呼憫れむべき佛蘭西の識者よ。吁々憎むべき佛蘭西の無責任なる批評者よ。嗚々、度し難たく容し難き佛蘭西の盲目政治家よ、盲目外交家

よ。

汝等は、朕が政策を惡評し攻撃するに先ちて、汝等自からの政策を顧るの要迫かに緊急問題ならずや。我獨逸帝國に復讐戦を許みんとする汝等は、朕が政策の善惡を評價する前に先づ、復讐戦の準備を爲すべきが、より以上緊要なる事なるにあらずや。

嗚々憐れむべき佛蘭西の人民よ。汝等は他人の疾患を氣にするより、先づ己れに疾病無きや否やを檢せよ。他人の頭上の蠅を追はんより、先づ己れの頭上を仰ぎ見よ。

嗚呼嗚々べき佛蘭西の人民よ。汝等は、汝等の頭上に何者が落下せんとしつゝあるかを知れりや。汝等の首と胸とは永遠に安全なる位置を保持し得べしと信じつゝあるや、汝等の國土は、永久に佛蘭西の國土たるを失はざるものと確信しつゝありや。

汝等の識者と稱する者は、朕に關する愚論を發表して、——思ふに今後十年間に獨逸の人民と全世界の人類とはウイヘルム二世の如何なる人物なるかを知るの時期に到達せん——と言へるが、朕は是を轉用して、思ふに今後十年間に佛蘭西の人民と全世界の人類とは、佛蘭西人と佛蘭西の國家とが如何なる運命に陥るかを知るの時

佛蘭西の愚なる識者

佛蘭西の愚なる識者  
期に到達せんと言はんと欲す。

汝等の識者と稱する者は、朕を評して、——彼れの常識彼れの智慮等に就いて研究するに概ね淺薄にして言ふに足らず、唯だ平凡なる日常談話に於て其人間らしき知識の光を認むるのみ。斯の如き人は常に事物の表面に立つ。然れども退いて之を察すれば、其頭腦や空虚なり。其心胸やサハラの砂漠なり、名譽の花は斯かる處には咲かず——と言へるも、朕に對して斯くの如き評言をなす汝等の識者こそ其常識、其の智慮等に就きて研究するに、概ね淺薄にして言ふに足らず、唯だ平凡なる問題に對する議論見解に於て稍々人間らしき知識の光を認め得るのみ。斯くの如き擬識者は常に社會の表面に立つを好み、常に諸種の問題に就て議論を爲すを好む。然れども退いて之れを考察すれば、其の頭腦や空虚なり、其の心胸やサハラの砂漠の如し、斯くの如き人物には決して勝利と名譽との美はしき花は咲き微笑まざるなり。

朕を知らずして朕を評論する憫むべき愚者よ。嗤ふべき佛蘭西の識者よ、汝等は遂

に朕が馬蹄下に蹂躪さるべき運命を脱すること能はざるものなるを覺悟せざるべからず。汝等の國土は我が獨逸の色を以て塗り更へらるべき先天的運命にあるを觀念せざるべからず。而も、汝等が滅び、汝等の國土が我獨逸領の一部と化するは、汝等が知ることを得ざる神の意志なることを覺悟せざるべからず。噫々憫むべき佛蘭西の人民よ。噫々嗤ふべき佛蘭西の識者よ。

### 九五 世界一の大活動家

朕は全世界に於て、朕の如く活動するものは、而かも不斷不絶の活動を爲すものは一人として他に之れあらざるを信ず。また、朕の如く事業を爲す皇帝は全世界各國の帝王中一人も匹敵するもの之れ有らざるを信ず。

自から獨り然信するのみにあらず、實際に於て、朕は自から宰相として、自から陸軍大臣として、自から海軍大臣として、自から文部大臣として、自から宗教大臣として、自から農商大臣として、國事のすべてを指導し、萬機を裁しつゝあり。

世界一の大活動家

世界を動かす一撃一笑  
朕をドンキホーテ的なりとして、朕を虚榮心極端に強き空想家なりとして、朕を誇大妄想狂なりとして、朕をナポレオン一世の如き大野心家なりとして、中傷譏誣することに全力を傾倒しつゝある英佛兩國多數の新聞記者すらも、朕が歐洲に於てのみならず全世界に於ける最大皇帝、最大政治家、最大外交家たることを、超人にあらざれば能はざる大技倆を有することを認識しつゝあり。何となれば、彼等が朕を中傷するに全力を傾倒しつゝあるは、即ち、朕が眞に全世界に於ける最大の皇帝なるが爲めなり。彼等が朕を譏誣することに全力を傾注しつゝあるは、即ち、朕が全世界に於ける最大の政治家たること事實に於て争ふべからざるが故なり。彼等が朕を攻撃の焼點となせるは、即ち、朕が全世界に於ける最大の外交家たること實際に於て否認すべからざるが故なり。

### 九六 世界を動かす一撃一笑

朕が宿志にして神の使命たる全歐統一、世界統一は、豫期の如く平和的に漸進的に

着々進捗しつゝあり。朕が全歐の盟主たり、全世界の大皇帝たり、大主権者たるの位地は、既に現在に於ても實際的となれり。争ふべからざる、他者の如何ともすべからざるを證明しつゝあり。  
見よ、朕が政策は歐洲のみならず、世界各國の刮目し細心の注意を爲しつゝあるにあらざるや。朕が外交上の意見は、世界各國の外交家を動かかし、世界の外交界を動搖せしめつゝあるにあらざるや。朕が、朕の陸海の軍備を大擴張を斷行せる結果は、全世界の各國をして、有らゆる努力と有らゆる弱策を講じてまでも、其の陸軍又は其の海軍の擴張を決行するの己むなきに至らしめたるにあらざるや。  
斯くの如く、すべての方面に於けるすべての朕の一撃一笑は、一撃一動は、地震の如く、潮流の如く、颶風の如く、洪水の如く、波動的に全世界の各國をして動靜するの己むなきに至らしめつゝあるにあらざるや。

既に平和的に然り。將來機會を捉へて、朕が其の強大なる陸軍と雄大なる海軍とを

世界を動かす一撃一笑

教育上に於ける音楽の價值  
以て、猛然武力的裁斷を下さば、歐洲の大小各國は素より、地球表面の國てふ國は、暴風に草葉の靡くが如く、水の低きにつくが如く、靡然として朕が馬蹄下に齧伏し、朕が命下に左右せらるゝに至るは、既に今日に於て斷言するに憚らざるなり。

九七 教育上に於ける音楽の價值

朕は、何人も形容し能はざる程に音楽に深大の趣味を有し、何人も形容し能はざる程に深く音楽を好み、且つ之れを愛す。  
朕が音楽に對して深く大なる趣味を有するは、猶ほ、其の軍事、政治、外交に於けるが如し。朕が音楽を好むは、猶ほ其の英雄を好み、哲學を好み、文學を好み、美術を好み、演劇を好み、銃獵を好み、遊戯を好み、其他朕が好める凡百ものを好むが如し、朕が音楽を愛するは、猶ほ朕が妻子を愛し、兵士を愛し、大人物を愛し、馬を愛し、國民を愛し、其他朕が愛する凡百ものを愛するが如し。

朕は常に思へり。音楽が、教育上大いに必要にして、而も其必要の程度が甚だ重大なる位地を占むるは、猶ほ他の學術技藝と毫も異ならざるのみならず、其の精神上、感情上に及ぼす感化影響は、頗る大なるものありて、實に音楽は、人間の靈魂を清淨潔白ならしむると共に、高上にし且つ之れを美化するものなり——と。

音楽を解せず、また好まず愛せざるものは、即ち、音楽に深甚の趣味を有せざるものは、其の靈魂は常に濁れり、清淨法の設備なき都市の飲料水が、常に清淨なるが如くにして實は常に濁れるが如く常に濁れり。而して、其の濁れる靈魂は高上することなく美化することなし。

音楽を解し、音楽に興味を有し、常に音楽を愛するものを見よ。彼等の靈魂は、神によりて清められたる泉の如く清淨なり。彼等の靈魂は、人間の靈魂として到達し得る最高度にまで高上せり。彼等の靈魂は、人間の靈魂として到達し得る最高極度にまで美化せられたり。

教育上に於ける音楽上の價值

朕は音楽の大批評家なり  
見よ。音楽を解し、音楽に深大の趣味を有し、常に音楽を好愛する者を——。彼等の精神は常に健全なるにあらずや。彼等の心は二六時中歡喜と愉快とに充ち満てるにあらずや。彼等の眼は常により以上の生色を帯び、歡嬉と愉快の色に輝けるにあらずや。彼等の唇は常に微笑を湛へ愉快なる血色を以て彩られつゝあるにあらずや。彼等の双手は常に活潑に動かされつゝあるにあらずや。彼等の活動は常に愉快なる活動なるにあらずや。彼等の睡眠は常に恐怖なく不安なき睡眠なるにあらずや。彼等の夢は常に楽しく愉快なる夢なるにあらずや。音楽を解し、音楽に深甚の趣味を有し、音楽を常に好愛する者は常に幸福にして常に愉快なり。

九八 朕は音楽の大批評家なり

朕は只だ單に音楽に興味を有するのみにあらず。常に音楽を好愛するのみにあらず、朕は音楽に關する深奥なる知識を有す、而も全世界に於て何人も及び能はざる知識を有せり。

朕は常に音楽に關して批評を爲すことを好む。折に觸れ、時に際し、音楽に關する意見を發表し、有名なる音楽家について屢々批評を試みたり。ワグネルの如きは、朕が最も興味を感じて批評を試みたる一人なり。而して朕が音楽に就いて批評を試むる場合は、豫め批評の準備を爲すことなく、如何なる場合に於ても不用意に即席的に爲せり。而も朕が不用意の間に即席的になせる批評は、第一流の音楽批評家が豫め準備を爲して、即ち十分の研究考察をなしたる結果の批評に比して、迥かに優秀なる批評なり。遙かに卓越せる批評なり。何人と雖ども一點の非難をも爲し得ざる完全なる批評なり。  
故に彼等音楽家は、常に朕より批評を試みられんことを熱望せり。而して、朕より批評を試みられたる音楽家は、獨逸人の音楽家のみならず、全世界の音楽家の等しく唯一の光榮とし名譽とせり。

九九 朕は大作曲家なり

朕は大作曲家なり

朕は大演奏家なり  
朕は常に音楽に多大の趣味を有し、批評を爲すことを好むのみならず、作曲に於ても多大の興味を有し、自ら作曲することを好み、既に自ら數曲を作れり。就中「エーギルの讚美」の如きは、其の傑作と稱すべきもの、一にして、我獨逸に於ては殆んど何人と雖ども之れを知らざるものなし。朕は作曲家としても、其の第一流の者に優れり。

一〇〇 朕は大演奏家なり

朕は又、批評を試み作曲を爲すと共に、自ら演奏することを好み、如何なる種類の楽器を以てするも能はざることなし。又、如何なる難曲を奏せしむるも容易に之れを演奏し得るなり。のみならず、合奏の指揮者としても第一流の指揮者以上の巧妙なる手腕を有す。

朕は第一流以上のピアニストなり。如何なる難曲にても自由自在に且つ聽者をして

感嘆激賞するの外なからしむる程に巧妙に演奏す。故に朕は朕の室内に此楽器を備ふるのみならず、軍陸の大演習の時にも、海軍の大演習の時にも、快艇に乗じて快走を試むる時にも、必ずピアノを備へ、樂手をして演奏せしめ或は自ら之を演奏するを常とす。而して、朕が斯く音楽に深甚の趣味を有するのみならず、音楽の大學者たり、大批評家たり、大作曲家たるは、即ち朕が大天才なるが故なり。知らんとし知り得ざることなく、爲さんとして爲し能はざることなき小全知全能の現實の超人なるが故なり。

一〇一 戀愛と眞の英雄

戀愛を解せざる英雄は眞の英雄たる資格を缺けるものなりと云ふは、英雄の眞義より見て、眞理を喝破したるものと謂ふことは能はざるも、女性の美に憧憬するが如き英雄は眞の英雄にあらずと云ふことも、眞の英雄を解したる言と爲すこと能はず。

戀愛と眞の英雄  
然れども英雄は女性之美を好み且つ之れを愛するとも、決して英雄たるの資格を失ふものにあらず。即ち英雄は戀愛せざるべからずと云ふことが其の必須條件にはあらずと雖も、戀愛に憧憬るゝも亦毫しも妨げざるなり。

されど、英雄が女性之美に憧憬れて遂に其の資格を失ふことあり。啻に英雄たるの資格を失ふのみならず、凡人以下の人物となり了することあり。是れ即ち戀愛に耽溺したる結果なり。

戀愛は人生の全部にあらず。又た其の大なる一部分にてもあらず。一部分中の一小部分なり。即ち人生の眞面目なる遊戲的方面に於ける一部分なり。戀愛に耽溺して身を誤る者凡人に多きは、戀愛を以て人生の全部なりと解するが爲めなり。尠くとも戀愛は人生の最大部分を占むるものと誤解するが故なり。

戀愛は所詮遊戲なり、最も眞面目なる遊戲なり。既に戀愛が人生の遊戲的方面の一部分たる以上、是れを人生の全部なりと解し、尠くとも其の最大部分を占領せるものと解するは、根本に於て誤れり。此の戀愛の根本義を知らざる英雄が、凡人と同様の思想を持って遂に英雄たる資格を失脚するは、當然の事にして決して怪しむに足らず。

### 1011 空前絶後の大皇帝

嘗て、佛蘭西の新聞記者は言へり。獨逸現皇帝ウイヘルム二世の存在する間は、歐羅巴の新聞は決して新聞記事の材料に窮乏を感ずることなかるべし。何となれば、ウイヘルム二世の一舉手一投足、否な其の一呼吸にても、新聞記事の材料としては頗る面白く興味あるものなればなり——と。又嘗て、佛蘭西の政治家は言へり。世界幾千年の歴史、最も偉大なる皇帝の記事に富むと雖も、現獨逸皇帝ウイヘルム二世の如き面白き興味多き皇帝の記録は、之れを有せず——と。朕は彼等が此の言を發するに見ても、彼等の腦裡に如何に朕が映じつゝあるかを知る。否な、彼等佛蘭

空前絶後の大皇帝



空前絶後の大皇帝  
西の政治家、新聞記者のみならず、全世界の政治家、新聞記者に、朕の一舉手一投足が、如何に映じ、如何に印象しつゝあるかを知る。  
彼等が、朕が存在する限り歐羅巴の新聞は材料に窮乏を感ずる事なかるべしと云へるは、即ち朕の政治的一舉手一投足が、如何に歐羅巴の政治界を左右する大勢力なるかを知るべく、朕が外交的の一言一行が如何に歐羅巴の外交界に大影響を及ぼす偉力あるかを知るべし。

佛蘭西の政治家は、世界幾千年の歴史、最も偉大なる皇帝の記事に富むと雖ども、朕の如き面白き記録は之れを有せずと言へるが、朕の記録が過去幾千年間の有らゆる最も偉大なる皇帝の記録に遙かに豊富にして且つ偉大優越せるは、當然の事にして決して怪事となすに足らず。

何となれば、彼等は總て人造帝王なればなり。人為的、後天的皇帝なればなり。即ち、神の命によりて生れ、神の命によりて皇帝となり、神の意志によりて事業を爲したるものにあらざればなり。如何に偉大なる帝王たりとも神の命によりて帝王となれ

るにあらざれば、其帝權は絶対無限たること能はず。其の權威は絶対的、永久的たること能はず。其帝位は何者と雖も篡奪を企つること能はざる不可侵のものにあらず其事業は如何に偉大なりとも、如何に大規模なりとも、神の意志によりてなされざるものは、遂に最終的成功を贏ち得ること能はず、必ずや障礙續出して、未完の儘に終局す。假令、成功せるが如く見ゆることあるも、其は眞に完全なる成功にあらず、不完全なる成功なり。有史以來幾千年間に於て、最大或は偉大てふ讚辭を冠せられたる帝王を見よ、而して其の事業を觀よ、蓋し思ひ半ばに過ぐるものあるべし。

朕は彼等と正反對的に相異せり。朕は神の命によりてホーヘンツォルレン家に生れ來れり、而して獨逸人の皇帝となれり。即ち、全世界のすべての人類に永遠無窮の平和と無限の幸福とを與へんとする神の意志を達成せんが爲めに、神は特に朕をしてホーヘンツォルレン家に生れしめ、獨逸帝國の皇帝たらしめたるなり。故に朕は、現在に於ては獨逸人の皇帝なりと雖ども、將來に於ては、全世界の全人類の皇帝となり、神の意志の如く神の命を奉じて永遠の平和と無限の幸福とを與ふべし。之れ朕が

空前絶後の大皇帝

意外に非ず神の意なり  
任務なり、神より授けられたる任務なり。之れ朕が責任なり、神に對する責任なり。  
朕が記録は神の意志によりて作り、神の命令によりて作る、之れ朕の記録が、有史  
以來數千年間の有らゆる偉大なる皇帝の有らゆる偉大なる記録に優れる所以なり。  
既に過去に於ける總ての帝王一人として朕と對等線上に立ち得るものなし。今後全  
世界の全人類が絶滅する迄現はるべき幾多の帝王と雖も、亦一人として朕と比肩し得  
べきものなからん。實に朕は空前絶後の大皇帝なり。

一〇三 意外に非ず神の意なり

朕が父フレデリキ三世が、即位後僅かに四個月にして崩じ、繼て朕が獨逸皇帝の位  
に即けるに就て、世人の多くは、彼れウイヘルム二世に於ても意外の出来事なりし  
ならん——、と言へども、是れ決して意外の出来事にあらず。祖父ウイヘルム一世  
が崩じたるも神の意志なり、神の命なり。父フレデリキ三世が在位僅かに四個月にし  
て崩じたるも神の意なり、神の命なり。而して朕が位に即けるも神の意なり、神の命

なり。決して遇然の出来事にもあらず、又た意外の出来事にもあらず。斯くなるべ  
く神が命じたるが故に斯くなるなり。朕自からと雖ども、不意の出来事とも意外の  
出来事とも思はざりき。

此者眞に我大和民族ノ覺醒ニ足ル良キ事ナリ  
東洋の兩朝若くは一國と云ハれり我國の神州中極ニ  
シテ上流及中流ニ在リテ其ノ地位ニ於テ是レノ如キ事ハ  
稀ニシテ或ハ紅燈籠ノ如キ事ナリ。然レモ我國ノ  
歴史ニ於テ是レノ如キ事ハ稀ニシテ或ハ紅燈籠ノ如キ事  
ナリ。然レモ我國ノ歴史ニ於テ是レノ如キ事ハ稀ニシテ  
或ハ紅燈籠ノ如キ事ナリ。然レモ我國ノ歴史ニ於テ  
是レノ如キ事ハ稀ニシテ或ハ紅燈籠ノ如キ事ナリ。

朕が作戦(終)

意外に非ず神の意なり

此者眞に我大和民族ノ覺醒ニ足ル良キ事ナリ  
東洋の兩朝若くは一國と云ハれり我國の神州中極ニ  
シテ上流及中流ニ在リテ其ノ地位ニ於テ是レノ如キ事ハ  
稀ニシテ或ハ紅燈籠ノ如キ事ナリ。然レモ我國ノ  
歴史ニ於テ是レノ如キ事ハ稀ニシテ或ハ紅燈籠ノ如キ事  
ナリ。然レモ我國ノ歴史ニ於テ是レノ如キ事ハ稀ニシテ  
或ハ紅燈籠ノ如キ事ナリ。然レモ我國ノ歴史ニ於テ  
是レノ如キ事ハ稀ニシテ或ハ紅燈籠ノ如キ事ナリ。

不許製復  
 朕が作戦  
 定價五十八錢

大正三年十一月二十七日印刷  
 全 年十二月七日發行  
 全 年十二月十五日再版  
 全 四年二月二十七日三版  
 全 四年四月五日四版  
 全 七年七月十七日五版  
 大正四年八月三日六版  
 全 年八月二十三日七版  
 全 年九月十五日八版  
 全 年十月三日九版  
 全 年十月十日十版  
 全 年十月十五日十一版  
 大正四年十月二十日十二版  
 全 年十月二十五日十三版

獨佛日發印  
 帝國本  
 カイゼル  
 クリユール  
 ヲリユール  
 麗陽  
 原譯著  
 東京市淺草區黑船町十五番地  
 武田松之丞  
 東京市神田區松住町五番地  
 菅井十郎  
 東京市神田區松住町五番地  
 博盛堂印刷所

發行所

武田博盛堂

東京市淺草區黑船町十五番地

329

251

終

